

# 浜松バッハ研究会創立10周年記念

## J.S.バッハ 「マタイ受難曲」 全曲演奏会



図：今村英男

日 時：1996年2月18日(日) 午後3時開演

場 所：アクトシティ浜松中ホール

主催：浜松バッハ研究会  
共催：浜 松 市  
後援：(財)浜松市文化協会

## 上演曲目

### J.S.バッハ「マタイ受難曲」BWV244

#### 第1部

#### 休憩

#### 第2部

### 代表あいさつ

本日は浜松バッハ研究会創立10周年記念「マタイ受難曲」全曲演奏会に御来場いただき、誠にありがとうございます。1985年にバッハ生誕300年を記念して前代表河野周平氏（現在パリ在住）のもと活動を開始した私達ですが、昨年創立10周年を迎えることができました。これも我々の活動を暖かく御支援してくださる皆様のおかげと深く感謝しております。

創立当初は会員だけで練習、演奏活動を行っていましたが、より高い演奏を目指し、1990年にオペラ、オラトリオ指揮者として御活躍されている三澤洋史先生を指導者としてお迎えし、バッハ作曲の「口短調ミサ曲」「クリスマス・オラトリオ」「ヨハネ受難曲」さらにはヘンデル作曲「メサイア」とバロック宗教曲の名曲を歌ってまいりました。そして本日念願の「マタイ受難曲」全曲を、しかも一昨年十月のオープン以来私たち音楽愛好家を楽しませてくれているアクトシティ浜松中ホールで演奏できることはこの上もない喜びです。まだまだ未熟な演奏ではございますが、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみ下さい。今後も今日の喜びを糧として、バロック音楽を「音楽の街」浜松の皆様楽しんでいただけるよういっそう努力し、新たなる飛躍を目指していく所存でございます。皆様の変らぬ御支援をお願いいたします。

最後になりましたが、本日ご来場下さいました皆様、常日頃より私達の活動を支えて下さっている皆様に会員一同心から感謝いたします。

浜松バッハ研究会代表：早川 徳次

### ご寄稿

#### 浜松市長より

浜松バッハ研究会が創立10周年を記念して、J.S.バッハの「マタイ受難曲」の全曲演奏会を盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

浜松バッハ研究会は、バロック音楽をこよなく愛する団体として知られておりまして、浜松市制80周年記念のラートハウスコンツェルトでは、市役所庁舎のロビーで荘厳なバロック音楽の演奏を聴かせていただくなど、多彩な活動を続けておられます。

本日、ここアクトシティ浜松の中ホールで披露される「マタイ受難曲」は、バッハ研究会の会員はもとより、浜松ライオネット合唱団、そして一般市民から広く公募された合唱団員が参加され、まさに共同で作上げられた芸術作品であります。音楽の街作りを推進しております本市にとりまして、このように多くの熱心な市民の方々がこの演奏会のために集い、共に研鑽を積まれるということは、大変心強い限りでございます。

本日の演奏会では、練習の成果をいかに発揮され、素晴らしい音色をご披露していただきますようご期待申し上げます。

結びに、浜松バッハ研究会の今後のますますのご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

浜松市長：栗原 勝

## バッハの旅（浜松バッハ研究会10周年記念公演に寄せて）

前（初代）浜松バッハ研究会代表：河野 周平（在パリ）

昨年12月23日、私はバッハの足跡を訪ねて旧東ドイツへの旅に出た。奇しくもこの日は浜松バッハ研究会設立の基となったクリスマス・オラトリオ公演の丁度10年後であった。

旅の始まりはベルリン、到着を待ちかねたように雪が降り始め、文字通りのホライト・クリスマスを迎えた。幸運なことに、聖マタイ教会でのクリスマス・オラトリオのコンサートを聴く事ができた。懐かしいコラールを共に歌いながら思い起こされたのは、過ぎし10年間の出来事と、亡くした親しい人達のことであった。

ベルリンはバッハ愛好家にとって重要な町である。1829年3月11日のメンデルスゾーン指揮による、ベルリン合唱協会のマタイ受難曲演奏がバッハの再評価のきっかけであり、ついには「音楽の父」と称されるまでに至ったのである。バッハ自身によるマタイ受難曲の初演が1729年であるから100年を経て初めて一般聴衆に理解されることになったわけである。更に167年後の今日、極東の地でも演奏され続けているという事実は、バッハの音楽が如何に先進的であったか、また普遍的であるかを示すものと言えよう。

翌日はベルリン郊外の町ポツダムにあるサンスーシ宮殿を訪ねた。サンスーシとはフランス語で「憂いの無い」という意味だが、一面銀世界の庭園はえも言われぬ凄絶な美しさであった。この宮殿は晩年のバッハがフリードリッヒ大王に謁見し、御前演奏をした所であるが、それが後に「音楽の捧げ物」としてまとめられた。

1945年には同じこの場所に連合国の首脳（トルーマン、チャーチル、スターリン）が集まり、第2次大戦の戦後処理が話し合われた。そして敗戦国のその後の運命を決めたポツダム宣言が発せられたのである。しかし50年を経て、戦後体制の象徴とも言うべきベルリンの壁もすっかり姿を消してしまった。ポツダムにおけるバッハと戦後の対比は、芸術は永く人生は短いことを痛感させる。

翌日、車で350kmを走りバッハの生地アイゼナハへ向かった。ここはルターが青年時代を過ごし、後に聖書のドイツ語訳を成し遂げたプロテスタントの聖地でもある。バッハの生家は失われたが、その一家の住居が博物館として残っており、当時の生活の様子を再現して見せてくれる。町の中央にある聖ゲオルグ教会には310年前にバッハが洗礼を受けた石の洗礼盤がそのまま残っていてバッハ詣での人々に感銘を与える。

40年に及ぶドイツ分割時代、東側の人々は経済発展から取り残されたが、伝統的な町並みと共に、豊かなドイツ本来の精神文化を護ってきたように思える。再統一から5年たった今、多くの家庭が改修中であり、生活レベルも急激に改善されているようである。願わくはルター・バッハ以来の古き良きドイツをいつまでも継承してもらいたいものである。

バッハが若き時代を過ごしたアルンシュタット、ワイマールを訪ねた後ライプツィヒへ向かった。この町は彼が38才から亡くなるまでの27年間を聖トーマス教会の合唱長として過ごした所である。同年齢のヘンデルがロンドンで得た名声や、首都ドレスデンに於ける新しいオペラの隆盛を耳にしながらも、バッハは自分に与えられた教会音楽の世界で後世に残る名作を創り続けた。しかし、オルガン演奏の大家とは認められたものの、彼の作品は同時代の人々には遂に理解されなかった。そして1750年の彼の死と共にその音楽は忘れ去られ、墓の所在地さえも不明となってしまった。1897年にバッハの遺骨が発見され聖ヨハネ教会に納められたが、これも戦争で破壊されてしまった。1949年になってようやく聖トーマス教会に墓所が創られ、老合唱長は実に200年振りに職場復帰できたのである。

バッハを歌い始めて25年、ようやく聖トーマス教会を訪れることができた。写真で見慣れたゴシックの尖塔と急峻な屋根は遠くからでもすぐに識別できる。バッハの立像は思っていたとおり威厳にあふれ、偉大である。教会内に入ると荘厳なオルガンの響きが迎えてくれた。ステンドグラスに描かれたルターとバッハが慈愛に満ちた眼差しを向けている。そして遂に旅のゴールにたどり着いた。祭壇前の床に矩形の青銅の墓碑が見える、感極まる一瞬であった。ヨハン・セバスティアン・バッハはここにいるのだ。

バッハ縁りの地全てを訪ねることはできなかったが、時代の節目、人生の節目に最高の思い出を残すことができた。いつの日か再び、バッハを愛する仲間達と共にこの地を訪ねよう、そう願ながらパリへの帰路についた。凍てつくドイツの空に満天の星があった。バッハの音楽が鳴っていた -- <いと高き所に神の栄光あれ> --

## 出演者一覧

### 合唱

ソプラノ 井浦芙蓉子、奥山貴子、香田美湖、酒井恵子、  
富安典子、中村直子、丹羽多美子、三宅ゆりの、  
渡辺美恵子、赤羽根美穂子

アルト 秋山百合子、伊藤ゑり、木村洋子、國井みさえ、  
小西リン、鈴木理恵、高橋三紀子、武田清美、  
野寄友佳子、森田悦子

テノール 川口強、高原慎一、武石薫、戸島準一郎、  
野沢誠、山田明生

バス 青木繁光、小川貴範、竹内康高、田中美岐雄、  
名倉英治、長谷部雅彦、安井研一、和田史和

### 合唱

今井久子、今村陽子、大脇明美、小林左代子、  
古賀晴美、早川実花、古山和恵、守田牧子、  
毛利優子

今泉紀子、浦ひとみ、小貫素子、金子恒江、  
木山道子、小酒井久美、森上みどり、山室幸子

成田孝宏、丹羽哲也、早川徳次、森光彦

生駒修治、小貫勇作、後藤一郎、坂田宏信、  
高森義之、中山功夫、萩野潔

[練習伴奏ピアニスト：稲垣順子(浜松)、高木克子(豊橋)]

### 児童合唱(浜松ライオネット合唱団)

鈴木綾、鈴木智子、鈴木里栄、田中文、宮本麻貴、溝口絢香、長谷川由輝子、磯部明子、  
田中宏枝、小島由子、熊本知子、鈴木理美、西尾舞衣子、溝口理恵、斎藤亜紀、鈴木映美、  
石田鮎美、片岡佐智予、大石真理、森麻衣子、藤森亮、熊谷美幸、高橋由布子、高田初音、青山弥生、  
加茂侑子、新村昌代、鈴木尋子、伊藤暁香、鈴木藍、地田裕子、伊藤麻衣、乗松香予、大隅梨江  
[スタッフ：団長 - 新美博義、指揮者 - 初村則子、伴奏者 - 久保田世津子、教育指導 - 稲垣知央、事務局 - 小林博治]

### オーケストラ

第1ヴァイオリン 北川靖子、生駒尚子、中林尚之、  
中山明美、三浦文路

第2ヴァイオリン 小沢規子、東儀温、  
水谷奈緒子、山本有紀子

ヴィオラ 徳弘太郎、花尾四郎、  
山内絵理、吉川紀彦

チェロ 神農清志、小川美菜子

コントラバス 田邑元一

フルート 木村伊都子、松永寛美

リコーダー 中山真、山田有恒

オーボエ 清水恵士、宮岡慎里

ファゴット 曾布川利貞

### オーケストラ

木村英道、大嶋吾郎、小杉美砂子、  
剣持秀紀、建部好美

井上雄史、工藤裕子、  
神農佐知子、藤野万紀子

秋元紀子、井上麻里、  
小林茂、原田吉郎

高橋元博、山内明

曾根圭司

末広信、北村美智子

吉野康子、村松伸一

チェンバロ 近藤里枝  
オルガン 花井淑

福音史家、テノール独唱：頃安利秀

イエス：渡部成哉

ソプラノ独唱：山田美津子

アルト独唱：佐藤安子、小田薫

バス独唱：長谷川顯

指揮：三澤洋史

## 主な出演者のご紹介

**指揮：三澤洋史** 群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業。在学中より指揮者を志し、故山田一雄氏に師事。その後ベルリンに渡り、ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。帰国後はオペラ指揮者としてデビュー。二期会音楽スタッフの中心的存在として活躍。二期会合唱団を中心とした我が国の合唱指揮者としての地位は、今や不動のものとなっている。サバリッシュ、ホルスト・シュタインなど外来指揮者からの信頼も厚い。バッハに深く傾倒し、「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」などを全て暗譜でレパートリーに持つ。声楽を伴うオーケストラ作品の全ての分野に精通する。名古屋芸術大学客員教授、東京芸術大学・京都教育大学非常勤講師。

**福音史家、テノール独唱：頃安利秀** 1953年兵庫県生。関西学院大学文学部美学科、東京芸術大学音楽学部声楽科、さらに1982年よりデトモルト音楽大学（ドイツ）で声楽を学ぶ。大野静勇、渡辺高之助、原田茂生、河合武彰の各氏に師事。ドイツ留学中には、H.クレッチマー、E.ヘフリガーの両氏からドイツ歌曲、オラトリオ、またエヴァンゲリストとしての正統的な歌唱法を学び、留学中からヨーロッパ各地でバッハのオラトリオを中心にコンサート活動を開始する。その後スイスのチューリッヒ歌劇場、さらにドイツのバイエルン放送合唱団に所属しながら演奏活動を続け、8年あまりに渡るヨーロッパ生活の後、1991年に鳴門教育大学助教授として招聘される。現在、後進の指導に当たるとともに、各地でコンサート、オペラ等に出演。1993年に「歌曲リサイタル『詩人の恋』」で徳島県芸術祭最優秀賞を受賞。

**イエス：渡部成哉** 東京芸術大学、同大学院修了。芸大「メサイア」の独唱者に選ばれ、まず宗教曲の歌い手として出発した。バッハの三大作（「マタイ」、「ヨハネ」の両受難曲、「ミサ曲口短調」）、「メサイア」等で多くの舞台を踏み、さらに、バッハのカンタータ、「第九」、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレのそれぞれの「レクイエム」などを歌う。一方、藤原歌劇団「魔笛」の弁者を皮切りに、二期会、藤原歌劇団、日本オペラ協会、東京室内歌劇場その他の公演で、モンテヴェルディの「ユリシーズの帰郷」（日本初演）から現代日本の新作に至る多数のオペラを歌う。また、指揮者としてオペラに関わる機会も多く、今年6月には「こうもり」全曲を2夜にわたって指揮する予定である。著作に「例解新国語辞典」（三省堂）があり、日本の芸道論から演奏を考えるという斬新な論文「演奏における虚と実」によって音楽之友社賞を受けた。演奏会評、解説などを数多く手がける他、最近ではオペラ台本（「三郎信康」）にも活動の場を広げている。現在、二期会会員、日本演奏家連盟会員、千葉大学助教授。

**ソプラノ独唱：山田美津子** 1987年、国立音楽大学声楽科卒業。佐藤安子、大平繁子、栗林義信の各氏に師事。57回読売新人演奏会、1988年東京文化会館推薦音楽会、1989年日伊声楽コンクール入賞演奏会などに出演。1990年東京音楽大学研究科オペラ・コース修了。1991年浜松市民オペラ「カルメン」のミカエラ役でデビュー。1993年浜松市民オペラ「椿姫」のピオレッタ役で好評を博す。現在、東京音楽大学助手、藤原歌劇団準団員、日伊協会会員。ミラノ音楽院に留学中。

**アルト独唱：佐藤安子** 東京学芸大学特設課程音楽科卒業。秋元雅一郎、ブランコ・チュベルカ、伊藤純子の各氏に師事。浜松において各種のコンサートに出演。浜松バッハ研究会の演奏会においては、バッハの「マタイ受難曲」や「クリスマス・オラトリオ」のアルト・ソロに出演。浜松音楽家集団所属、浜松市民オペラ協会理事。現在信愛学園高等学校音楽科講師。

**アルト独唱：小田薫** 信愛学園高等学校音楽科卒業、武蔵野音楽大学音楽部声楽科卒業。佐藤安子、岡崎雅明の両氏に師事。現在、二期会合唱団準団員。

**バス独唱：長谷川顯** 国立音楽大学声楽家卒業。声楽を砂川稔氏に師事。日本で唯一、プロのオペラ合唱団である二期会合唱団に所属し、年間40本に及ぶオペラ公演や多数の演奏会に出演している。そうした中でもバス・パートリーダーとしてソロイスティックな役柄をつとめることが多いが、ソリストとしても、モーツァルトの「魔笛」のザラストロ、プッチーニ「ラ・ボエーム」のコルリーネに出演している。また一方では、バッハ「口短調ミサ」「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」や各ミサ曲、フォーレ「レクイエム」などのキリスト教会音楽を中心としたソリストとしても活躍している。

**コンサート・ミストレス、オーケストラ-1ヴァイオリン独奏：北川靖子** 幼少より父に手ほどきを受け、後 W. シュタフォン・ハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業後、ウィーン国立アカデミーにて F. サモヒール、F. ホレチェックの両教授に師事。1975年、同大学を全教授一致の最優秀賞で卒業。1976年から1984年までハンブルク交響楽団、ハンブルク室内合奏団のコンサート・ミストレスを務める。1985年12月からピアノの北川暁子と「ドゥオの夕べ」を開催。チェロの千本博愛、北川暁子とピアノ三重奏団セルヴェ・トリオとして演奏活動を行っている。現在、桐朋学園大学非常勤講師。

**オーケストラ-Ⅱヴァイオリン独奏：木村英道**

**フルート独奏：木村伊都子**

**リコーダー-Ⅰ：中山真**

**リコーダー-Ⅱ：山田有恒** 東京都出身。積志リコーダーカルテットメンバー。ヤマハ(株)に勤務し、リコーダーの製作に携わっている。

**オーボエ独奏：清水恵士**

**チェロ独奏：神農清志**

**チェンバロ：近藤里枝** 国立音楽大学ピアノ科卒業。ピアノを荘良江、結城恵子、属澄江の各氏に師事。バロック音楽奏法を大橋敏成、中野哲也の各師に師事。ソロ及びアンサンブル活動を行う。ヨーロッパ公演にてコンティヌオ奏者としての称賛をローザンヌ紙評にて受ける。

**オルガン：花井淑** 名古屋音楽大学音楽部器楽科卒業。オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、F.ボーンの各氏に師事。また、Z.サットマリー、A.シェーンシュテット、H.フォーゲルの各氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、名古屋・カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。四日市・KAIEN'S HALL "ムーシケ"専属オルガニスト。古楽アンサンブル<アーベント・ムジケン>メンバー、ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。日本オルガン研究会、日本オルガニスト協会会員。

\* 本日使用するパイプ・オルガンは高山市在住のオルガン製作家、田尻隆二氏作のコンティヌオ・ポジティブです。

**浜松ライオネット合唱団** 浜松ライオネット合唱団は、1981年浜松市内のライオンズクラブ後援のもとに誕生した少年少女合唱団で、名前の由来は「ライオンの子」です。NHK東京放送児童合唱団との共演以来、アメリカ・オーストラリア・ヨーロッパへの演奏旅行、世界青少年音楽祭・オペラ「夕鶴」・世界子どもフェスタへの出演等活発な活動を続けています。1992年には浜松市教育文化奨励賞を受賞しました。昨年夏、サンピエトロ寺院の正式なミサの中で讃美歌を奉唱してまいりました。その感動も覚めやらぬ本日、バッハ研究会の皆様と「マタイ受難曲」を歌う機会を得ました事は団員にとって大きな喜びです。現在団員は幼稚園年長から高校生までの約80名ですが、本日は小学校6年生以上が出演いたします。

**浜松バッハ研究会管弦楽団** 浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、カペラ・アカデミカ、浜松バロック・アンサンブル、ヤマハ吹奏楽団などから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらずレベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

## 「炎の剣」 三澤洋史

福音書のなかに私が見るのは、イエス・キリストに出会う事によって、自らの内面といやがおうにも真正面から向かい合わざるを得なかった人々の姿である。彼等の生き様を通して、私はその時代においていかにイエスが傑出していた人物であったかを知る。イエスの言う「私は平和でなく、剣をもたらず為に来た」という言葉は、一見逆説的に聞こえるけれども、まさに真実をついている。イエスに出会ってしまった人々は、もはやイエスの差し示す真理に向かって生きるか、これを拒否するかの二者選択しかない。財産とか地位とか、失うことを恐れるものを持っていなかった人々は良かったが、これを持っていた人々は足元をすくわれる思いであったろう。

受難の場面でのユダヤ人群众は、あたかも極悪非道な人達のように描かれているが、私はむしろ彼等に同情する。と言うか、もし私がそこに居たら、一緒に「十字架に付けろ」と叫んでいなかったという自信がない。

イエスがいなかったら、彼等はそれなりに敬虔なユダヤ教徒として一生を送っていた人達だ。悪人という訳ではない。イエスが攻撃していたパリサイ人、サドカイ人だって、ユダヤ教的世界の中ではそれなりの人物だったと思う。彼等の世界観からすれば、むしろ非常識で許し難いのはイエスの方だ。彼等が大切にしていた安息日を守らず、汚れた食べ物を平気で口にす。それをとがめれば、「外から入るものが人を汚すのではなく、人の内から出るものがむしろ人を汚す」などと屁理屈を言う。しかも多勢の群众を魅了し、神の子だユダヤの王だとまつりあげられていれば、祭司長や律法学者の立場だってない。

イエスを受け入れるにせよ、拒絶するにせよ、彼のまわりに大きな情念の渦ができる。イエスの言葉に真理を見い出すか否かはまさに紙一重。彼との出会い方による。その時どんな社会的立場にあったか、心理的状态にあったかでまったく違った関わり方をするだろう。

イエスを受け入れたら受け入れたで、また苦しみが始まる。ペテロを見るがいい。もしイエスに出会わなかったら、彼はガリラヤ湖畔の漁師としてつつがなく一生を終えたに違いない。結婚して子供をもうけ幸せな人生を送っただろう。イエスに出会って弟子とならなかつたら、何もイエスを恐怖から三度知らないと言って見捨てた弱い人というレッテルを貼られることもなかつたし、読み書きがろくに出来ない事で後からやってきたパウロに後継者のお株を奪われる苦しみもなかつたし、殉教という痛ましい運命に身を投ずることもなかつた。ユダだってそうだ。裏切り者と言われているが、イエスがいた為にこんな役を演じなければならなかつた。彼だって最初から悪意のみに満ちていた訳ではあるまい。もしかしたら彼なりに良かれと願ってした事かもしれない。

ユダヤ地区におけるローマの総督ピラトはイエスと不思議な出会い方をしている。ユダヤ人の祭司や律法学者達がイエスを連れてきて死刑にしてくれと言う。彼等があまりエキサイトしているので、むしろ彼はイエスに興味を持つのだ。おそらくピラトにとっては選民思想とそこから来る民族主義に凝り固まっているユダヤ人よりも、より開かれた世界観を持つイエスの方に親近感を持ったに違いない。そこでイエスに何の罪も認めないと言って彼を釈放しようと努めるが、ユダヤ人群众の憎悪の叫びに負け、とうとう自らの決断を放棄する。「この義人の血に対して私は責任を負わない。お前達で勝手に始末しろ」と言って逃げるが、しかし彼はユダヤの最高の権力を持つ者である。結果的に処刑は彼の責任において行われた。現在でも、どのミサ曲でも必ずクレードの真ん中で意味ありげにこう歌われる。「ポンティオ・ピラトのもとで十字架に付けられ、苦しみを受け葬られ．．．」と。

みんながイエスに振り回され、その存在自体を炎で刺し貫かれた。刺し貫かれたものは全て、人間の弱さであり愚かさであった。だが一体誰がそれを責められよう。その弱さは、愚かさは、現代に生きる我々が持っていないと言い切れようか。むしろ現代人はこの時代のユダヤ人達よりも、もっと弱く、愚かになってはいないだろうか。ただイエスのような存在に出会っていないから、自分の内面と向かい合わないでその日その日を平穩に生きていられるのではないだろうか。私は思う。イエスに出会えた時代は、やっぱり素晴らしい時代だったのではないだろうか。全てを捨ててイエスに従って行った弟子達。驚いて、感嘆して、ワクワクして、我を忘れて、夢中になって、我が人生ここにありという感じだったに違いない。ユダヤ祭司長などの背徳者にとってさえ、彼等自身は大変だったのだから、やっぱり素晴らしい時代だったのだと思う。

自分自身と向かい合う事。私はそこに人生のきらめきを見る。受難劇の真ただ中にもし自分がいたらどうであったかということ私には常に自問自答している。それは踏み絵を踏むか否かという問いに似てとても辛い仮定である。けれどこの問いを自らに発し続けながら人生を渡って行ける事を、私は神に感謝している。弱く愚かな私であるが、イエスに出会えたお陰で、自己を見つめることを忘れないでいられるのだ。

私が受難曲を好んで演奏するのもこうした理由によるところが大きいのである。

## 「マタイ受難曲」 解説と歌詞対訳

**1. 受難音楽の歴史** バッハの作品を頂点とする受難音楽の歴史は、多くのコラール同様、その源はグレゴリオ聖歌にまで遡ります。9～12世紀頃、キリストの受難を記念する聖週間の典礼の一部として4つの福音書の受難の部分の朗読が行われるようになり、中でも最も重要な聖金曜日にはヨハネ伝による受難の記述が選ばれ、その後登場人物毎に役割りが分担されるようになります。バッハの受難曲でイエスがバス、福音史家がテノール、イエスの弟子たちや群衆が合唱にて歌われるのは、グレゴリオ聖歌以来の伝統を踏まえたものです。

ルターによる宗教改革以後、シュッツらによるドイツ語を使用した作品が現われ、ドイツ語独特の抑揚を活かした音型修辞方法〔4. (2) 参照〕が確立されました。その後更に器楽伴奏も加わり、聖書句の部分はレチタティーヴォ+合唱となり、自由詩による独唱曲やコラールが挿入され、バッハの受難曲の下地ができ上がりました。

**2. バッハの「マタイ受難曲」の成立年代** バッハの2大受難曲は「ヨハネ受難曲」が1724年、「マタイ受難曲」が1727年と、彼のライプツィヒでの活動の全盛期に初演され、その後再演の度に改良されました。ひと昔前は「マタイ受難曲」初演は1729年というのが常識だったのですが、今では音楽学者ジョシュア・リフキン（指揮者としても有名）が提唱した1727年初演説が一般的となっています。これにより「マタイ受難曲」は、一部が他の作品からの転用だという説は解消され、初演時は全曲書きおろしのオリジナルだったこととなります。その後の大きな変更として、第1部終曲の第29曲に「ヨハネ受難曲」第2稿（1725）序曲が取り入れられました。

**3. 歌詞** 以下の3種類に分類できます。

**聖書句** マタイによる福音書第26～27章

**コラール** 主に受難を題材にしたプロテスタント・コラール〔4. (3) 参照〕

**自由詩** C. F. ヘンリーツィ（筆名ピカンダー）

**4. 全体の構成** 「マタイ受難曲」は、登場人物の感情の推移が細やかに描かれた、人間への「愛」に満ちた作品という評価が一般的ですが、その構成は筋書き上の必然性によって作り上げられた、非常に論理的なものです。

**(1) 大規模な合唱曲** 第1・2各部の序曲と終曲、第27・60・67曲の7曲が挙げられます。歌詞はいずれも筋書きとは直接関係ありませんが、「マタイ受難曲」独特の二重合唱編成の効果を活かした編曲が多く、中でも更に児童合唱が独自の旋律で加わる序曲は、多旋律音楽の頂点とも言えるものです。

**(2) 聖書の言葉** 福音史家のセッコ・レチタティーヴォによる語りを中心に、イエスを始めとする様々な登場人物が現われます。その旋律は、当時重要視されていた音型修辞学手法に基づき、悲しい下りは短音階で、苦難の部分は減5・減7度の跳躍という具合に、歌詞の意味がわからなくても旋律の動きだけで筋書きが推測できる作りとなっています。

ここでも合唱が活躍します。イエスに対立する言葉の大部分が多旋律で速めのテンポ向きに作られているのは、先人からの伝統を踏まえたものですが、「マタイ受難曲」では更に二重合唱による効果が加わります。

**(3) コラール** 第1曲も含めるとコラールは全9種類15曲あります。この内、独立した（4声体）コラールは全部で12曲あり、登場人物の心情の補足など、聖書の記述を補う役割りを果たしています。この中で特に重要なのは複数回登場するコラール旋律で、「マタイ受難曲」ではそれぞれに固有の役割りが与えられています。

"Herzliebster Jesu, was hast du verbrochen" - 旋律：J. クリュエガー、歌詞：J. ヘルマン

第3曲にて第1節、第19曲にて第3節、第46曲にて第4節が歌われ、主にイエスが受ける刑罰の不当性を述べます。「ヨハネ受難曲」でも第3曲で第6節、第17曲で第8・9節が登場しますが、役割りは異なります。

"O Welt, sieh hier dein Leben" - 旋律：H. イザーク、歌詞：P. ゲルハルト

第10曲にて第5節、第37曲にて第3節がうたわれ、イエスが問われる罪はわれらに責任があることを述べています。「ヨハネ受難曲」でも同様の役割りで登場し、第11曲で第3・4節が続けて歌われます。

"O Haupt voll Blut und Wunden" - 旋律：H. L. ハスラー、歌詞：P. ゲルハルト

第15・17・54・62曲にてそれぞれ第5・6・1/2・9節が歌われ、受難に関わる予言や事件の直後に弟子たちの心情を語る、いわゆる「受難コラール」です。普通の解説では第44曲"Befiehl du deine Wege"も、旋律と歌詞作者が同じであることから「受難コラール」とみなされがちですが、この曲に用いられている歌詞は神への信仰を歌う別セットのものであるため、他の「受難コラール」と同一視するべきではありません。

**(4) 独立した独唱曲** レチタティーヴォとアリアが相当し、様々な規模の楽器編成による伴奏が付けられ、表現に変化を与えてくれます。これらの曲の歌詞をよく見ると、各々を歌う独唱者のパート別に、それぞれ固有の役割りが決まっていることがわかります。これらの役割りが最も明らかになるのは終曲直前の第67曲です。

**ソプラノ** 「愛」または「愛する魂」、そして「感謝」を主題とした曲を歌います。

**アルト** 「懺悔と後悔」及び「哀願」がアルトの主題となっており、「マタイ」全体の雰囲気と相まって、聴く人の心に訴える短調の曲の多くを歌います。

**テノール** 福音史家もテノールですが、「信仰心」とそこから生じる「忍耐」に関する曲を歌います。

**バス** イエスに近い立場の人々の心情を語る役割りを持っています。



**a. レチタティーヴォ** アリアの序奏ともいべき10曲のレチタティーヴォは全て、続くアリアと同じ独唱者の分担です。レチタティーヴォの伴奏楽器の編成も、続くアリアと同じ場合が多いのが「マタイ受難曲」の特徴です。伴奏には、その場面に相応しい象徴音形を反復する助奏が付けられ、その中のある特定の数（音符数、小節数など）が、聖書の「マタイ伝」以外の部分（特に詩篇）と歌詞との関連を示しているようです。具体的には、

**第5曲** フルト2本が反復音形を完全な相似形で奏する音符数132、全10小節 詩篇132篇第10節

**第12曲** 通奏低音の8分音符数100、反復音形の休止5回 詩篇100篇第5節

**第19曲** 通奏低音に16分音符4個のまとまりが72、歌詞に「裁き」が2回 詩篇72篇第2節

**第22曲** 弦の旋律が7回下降、次に2回分上昇、再び11回下降 詩篇72篇第11節

**第34曲** 和音が39回、全10小節 詩篇39篇第10節（日本語版では第9節）

**第48曲** オーボエ・ダ・カッチャ2本の反復音形19回、全12小節 使徒行伝第19章第12節

（残りの第51・56・59・65曲については未説明）

こうしたレチタティーヴォ/アリアのペアは第1・2部に各パートほぼ1セットずつ挿入されています。

第8・39・42曲の3曲のアリアはレチタティーヴォなしで始まりますが、これらのアリアが歌われる場面はユダの裏切りの始まり・ペテロの否認・ユダの自殺と、いずれもイエス以外の登場人物の動向に注釈を加える場合に限ります。更にユダに関わる場面のアリアは必ずChorusにて演奏されます。

**b. アリア** アリアの多くは曲の前半の音楽または歌詞を繰り返すダカーポ形式で、3曲の例外（第13・42・65曲）を除いて、「マタイ受難曲」全体に一貫して悲しみ・嘆き・苦悩を表現します。

更に一部のアリア（第23・35・39・57曲）の序奏の出だしの通奏低音に受難コーラル第1行の旋律が織り込まれていることが知られていますが、更に調べると、以下の曲にも同旋律が最低音に確認できます。

イエスの精神的・肉体的窮地の場面のアリア 更に第20・49・52・65曲の4曲が相当。

重要な登場人物が去る場面の曲 更に第40・42曲の2曲が相当。

紙面の都合により譜例は第20曲のみとしますが、同旋律が登場する部分は下記の通りです。

**第20曲** 通奏低音第5～9小節（該当する音符に歌詞を付けました）

○ Haupt voll Blut und Wunden

**第40曲** バス声部の最初の7音。

**第42曲** 通奏低音第6～12小節。

**第49曲** オーボエ・ダ・カッチャ 第5～12小節（最初の音はフルート第4小節最後のE）。

**第52曲** 通奏低音第8～11小節。

**第65曲** 通奏低音第2～4小節（最初の音はヴァイオリン 第1小節のF）。

新たに該当する6曲は、同旋律が序奏の途中に潜む場合が多く、形もかなり崩れているため見つけにくいのですが、これを受難コーラル第1行が挿入されている曲は合計10曲となります。これに4声体で登場する受難コーラル4曲を加えると、受難コーラル旋律が登場する曲数は14となります。14はBACH（ABCを順に123とした場合B=2, A=1, C=3, H=8, 計14）の署名で、彼がイエスの受難を信じる証となります。

**5. 数による象徴** 4・（4）のような数による描写や関連付けが、他の多くの曲でも用いられています。ここでは耳で容易に確認できるものを選んでご紹介しましょう。

**第9曲**・イエスの予言に対して弟子たちが問いかける合唱の中で"Herr"が11回聞こえる。

ユダを除く11人の弟子が問いかけることを示す（ユダの問いかけは第11曲にある）。

**第20曲**・「眠る」という意味の単語"schlafen"を合唱が10回、4声揃って歌う。

その場にいるユダ以外の弟子11人のうち10人までが眠ってしまったことの暗示。残りの1人は見張りをしている（オーボエが相当）が、彼も眠くて仕方ない（眠い様子が序奏や後奏の後半に描写されている）。

**第27曲**・二重唱とそれに絡む9つの言葉（"laßt ihn"でひと言、"haltet"でまたひと言という数え方）。

ユダを除く11人の弟子について、二重唱がイエスの傍にいたゼバダイの子2人を表わし、残りの9人が一言ずつ発する。

以上のことは演奏する立場の人間には「それが演奏にどう影響するのだ」と言いたくなることなのでしょう。しかしこれらはバッハが宗教音楽を作曲する時の考え方の一端を示しています。すなわちバッハは作曲に先立って、各場面が要求する条件（登場人物の数、関連する旧約聖書の記述など）を思い付くだけ全て洗い出してから、その条件に合うように曲を仕上げて行くのです。音楽そのものが要求する和声的な条件に、更にこういう条件が加わるのはかなり厳しい制約となりますが、裏を返せば作曲や編曲に迷った場合の助言ともなり得るものです。バッハはこれらの条件を守ってこそ、より良い音楽ができると考えていたことなのでしょう。

\* ホームページには若干詳しい版がリンクされていますのでご覧ください。

## Erster Teil : 第 1 部

### 1.Chorus (Choral: Italic)

Kommt, ihr Töchter, helft mir klagen,  
sehst, -Wen?- den Brautigam,  
sehst ihn, -Wie?- als wie ein Lamm,

*O Lamm Gottes, unschuldig  
am Stamm des Kreuzes geschlachtet,  
sehst, -Was?- sehst die Geduld,  
allzeit erfunden geduldig,  
wiewohl du warest verachtet.*

sehst, -Wohin?- auf unsre Schuld.

*All' Sünd' hast du getragen,  
sonst müßten wir verzagen.*

Sehet ihn aus Lieb und Huld  
Holz zum Kreuze selber tragen.

*Erbarm' dich unser, o Jesu, o Jesu!*

### 2.Matthäus 26.1 ~ 2 (Bold: by Chorus)

Da Jesus diese Rede vollendet hatte,  
sprach er zu seinen Jungern:  
"Ihr wisset, daß nach zweien Tagen Ostern wird,  
und des Menschen Sohn wird  
überantwortet werden,  
daß er gekreuziget werde."

### 3.Choral

Herzliebster Jesu, was hast du verbrochen,  
daß man ein solch scharf Urteil hat gesprochen?  
Was ist die Schuld, in was für Missetaten  
bist du geraten?

### 4.Matthäus 26.3 ~ 13

Da versammelten sich die Hohenpriester  
und Schriftgelehrten und die Ältesten im Volk  
in den Palast des Hohenpriesters,  
der da hieß Kaiphas,  
und hielten Rat,

wie sie Jesum mit Listen griffen, und töteten.  
Sie sprachen aber:

**"Ja nicht auf das Fest,  
auf daß nicht ein Aufruhr werde im Volk."**

Da nun Jesus war zu Bethanien,  
im Hause Simonis des Aussätzigen,  
trat zu ihm ein Weib,  
die hatte ein Glas mit köstlichem Wasser  
und goß es auf sein Haupt,  
da er zu Tische saß.

Da das seine Jungern sahen,  
wurden sie unwillig und sprachen:

**"Wozu dienet dieser Unrat?"**

**Dieses Wasser hätte mögen teuer verkauft**

### 1.合唱 (コラール: 斜体文字)

来なさい、娘たちよ、私と共に嘆け、  
見よ、 - 誰を? - 花婿を、  
彼を見よ、 - どんな様か? - 子羊の如きを。  
*おお神の子羊、罪無くして  
十字架の上にほふられた。*

見よ、 - 何を? - その忍耐を見よ。  
*あなたはいつも忍耐強かった、  
いかにあざけられても。*

見よ、 - どこを? - 私たちの罪を。  
*全ての罪をあなたは背負われた。  
さもなければ私たちは絶望していたらう。*  
見よ、彼が愛と慈しみから  
十字架の木を自ら運ばれるのを。  
*私たちを憐んでください、おイエス、イエス。*

### 2.マタイ 26.1 ~ 2 (以下の強調文字は合唱)

さてイエスはこれらの言葉を語り終えると、  
弟子たちに言った。  
「お前たちも知っての通り、二日後は過越の祭りだ。  
そこで人の子は渡される。

彼が十字架に付けられるために。」

### 3.コラール

最愛のイエスよ、あなたはどんな罪を犯して、  
このような厳しい判決を受けたのですか?  
その罪は何ですか? どんな悪事に  
あなたは関わったのですか?

### 4.マタイ 26.3 ~ 13

その頃祭司長と律法学者  
それに民の長老たちは、  
カヤパという名の大祭司の邸に集り、

協議して

どのような策略でイエスを捕え、殺そうかと企んだ。  
しかし彼らは言った。

「祭りの間はやめておこう、  
民衆の間に暴動が起きるかもしれないから。」

さてイエスがベタニヤで  
癩病人シモンの家に居た時、  
ある女がイエスに歩み寄って、  
高価な香油の入った壺を持って来て、  
その香油をイエスの頭に注ぎかけた。  
ちょうど彼が食卓に就いた時だった。  
すると弟子たちがこれを見て、  
憤りをあらわにして言った。

「なぜそんな無駄使いをするのか?  
この香油は高く売って、

## und den Armen gegeben werden."

Da das Jesus merkte, sprach er zu ihnen:

"Was bekümmert ihr das Weib?

Sie hat ein gut Werk an mir getan.

Ihr habet allezeit Armen bei euch,

mich aber habt ihr nicht allezeit.

Daß sie dies Wasser hat auf meinen Leib gegossen,  
hat sie getan, daß man mich begraben wird.

Wahrlich, ich sage euch:

Wo dies Evangelium gepredigt wird

in der ganzen Welt,

da wird man auch sagen zu ihrem Gedächtnis,  
was sie getan hat."

## 5. Recitativo-Alto

Du lieber Heiland du,

wenn deine Junger töricht streiten,

daß dieses fromme Weib

mit Salben deinen Leib

zum Grabe will bereiten,

so lasse mir inzwischen zu,

von meiner Augen Tränenflüssen

ein Wasser auf dein Haupt zu gießen!

## 6. Aria-Alto

Buß und Reu knirscht das Sündenherz entzwei,

daß die Tropfen meiner Zähren

angenehme Spezerei,

treuer Jesu, dir gebären.

## 7. Matthäus 26.14 ~ 16

Da ging hin der Zwölfen einer

mit Namen Judas Ischarioth

zu den Hohenpriestern und sprach:

"Was wollt ihr mir geben?

Ich will ihn euch verraten."

Und sie boten ihm dreißig Silberlinge.

Und von dem an suchte er Gelegenheit,

daß er ihn verriete.

## 8. Aria-Soprano

Blute nur, du liebes Herz!

Ach! ein Kind, das du erzogen,

das an deiner Brust gesogen,

「貧しい者に施すことが出来るのに。」

イエスはこれに気付いて、彼らに言った。

「お前たちはなぜこの女を悩ませるのか?

彼女は私に良いことをしたのだ。

貧しい人々は常にお前たちと共に居るが、

私はお前たちとずっと一緒ではない。

この女が香油を私の体に注いだのは、

私の葬りの用意をするためなのだ。

まことに私はお前たちに言っておく。

この福音が伝えられるところでは

全世界どこでも、

この女の記念に、

彼女がしたことは語られるだろう。」

## 5. レチタティーヴォ・アルト

愛しい救い主よ、

あなたの弟子たちが愚かにも、

この信仰の厚い女が

香油であなたのお体に

葬りの用意をしたのを責めるのなら、

私にはせめてお許してください、

この目に溢れる涙の流れの

一滴をあなたの頭に注ぐことを!

## 6. Aria・アルト

懺悔と後悔は罪深い心をふたつに潰す、

私の涙の雫は

かぐわしい香りとなって、

まことなるイエスよ、あなたに注がれますように。

## 7. マタイ 26.14 ~ 16

さて、十二弟子の一人

イスカリオテのユダという者が

祭司長たちの所に行って言った、

「あなた方は私に何をくれるか?

私はイエスをあなた方に引き渡そう。」

すると彼らはユダに銀貨30枚を差し出した。

この時からユダは機会をうかがって、

イエスを彼らに引き渡そうとした。

## 8. Aria・ソプラノ

血にまみれよ、愛しき心よ!

ああ、お前が育てた子のひとり、

お前の乳房に養われた子が、

droht den Pfleger zu ermorden,  
denn es ist zur Schlange worden.

### 9. Matthäus 26.17 ~ 22

Aber am ersten Tage der süßen Brot  
traten die Junger zu Jesu und sprachen zu ihm:

**"Wo willst du, daß wir dir bereiten  
das Osterlamm zu essen?"**

Er sprach:

"Gehet hin in die Stadt zu einem und sprecht zu ihm: 「町に行つてある人を訪ねて彼に告げなさい。

'Der Meister läßt dir sagen:

-Meine Zeit ist hier,  
ich will bei dir die Ostern halten  
mit meinen Jungern.-"

Und die Junger taten,  
wie ihnen Jesus befohlen hatte,  
und bereiteten das Osterlamm.  
Und am Abend setzte er sich zu Tische  
mit den Zwölfen.

Und da sie aßen, sprach er:

"Wahrlich, ich sage euch:  
Einer unter euch wird mich verraten."

Und sie wurden sehr betrübt und huben an,  
ein jeglicher unter ihnen, und sagten zu ihm:

**"Herr, bin ich's?"**

### 10. Choral

**Ich bin's, ich sollte büßen,  
an Händen und an Füßen  
gebunden in der Höll'.  
Die Geißeln und die Banden  
und was du ausgestanden,  
das hat verdient meine Seel'.**

### 11. Matthäus 26.23 ~ 29

Er antwortete und sprach:

"Der mit der Hand mit mir in die Schüssel tauchet,  
der wird mich verraten.

Des Menschen Sohn gehet zwar dahin,  
wie von ihm geschrieben stehet;  
doch wehe dem Menschen,  
durch welchen des Menschen Sohn verraten wird!  
Es wäre ihm besser,

daß derselbige Mensch noch nie geboren wäre."

Da antwortete Judas, der ihn verriet, und sprach:

"Bin ich's, Rabbi?"

Er sprach zu ihm:

"Du sagest's."

Da sie aber aßen, nahm Jesus das Brot,  
dankete und brach's  
und gab's den Jungern und sprach:

養い育てた親を殺そうと迫る。  
その子は蛇となったからだ。

### 9. マタイ 26.17 ~ 22

さて、除酵祭の最初の日、  
弟子たちがイエスに歩み寄つて彼に言った、

**「私たちはどこに  
過越の食事の用意をいたしましょうか？」**

イエスは言った。

『師の言伝をお伝えします。

- 私の時が来た、  
私はあなたの傍で過越を  
弟子たちと一緒に守ろう。 - 』」

弟子たちはイエスが命じた通りに、

過越の用意をした。

そして夕方イエスは十二弟子と共に席に付いた。

そして彼らが食事をしている時、イエスが言った。

「まことに私はお前たちに言つておく。  
お前たちの中の一人が私を裏切るだろう。」

弟子たちはひどく悲しみ、  
各々イエスに向かつて言い始めた。

**「主よ、私ですか？」**

### 10. コラール

**私です。私が償うべきなのです。**

**両手両足を縛られて、  
地獄に落ちるべきなのです。**

**鞭と縄目、  
そしてあなたが耐えてくださったもの、  
それこそ私の魂に相應しい報いです。**

### 11. マタイ 26.23 ~ 29

イエスが答えて言った。

「私と共に手を同じ鉢に入れて食事をする者が  
私を裏切るだろう。

人の子の逝くさまは、  
(聖書に)記された通りである。

しかしその人は災いである。

人の子を裏切るのだから！

このような人は、  
生れない方が良かっただろう。」

イエスを裏切ろうとしているユダが答えて言った。

「先生、それは私ですか？」

イエスはユダに言った。

「お前の言う通りだ。」

さて彼らが食事をする時、イエスはパンを取り、  
感謝して裂き、

弟子たちに与えて言った。

"Nehmet, esset, das ist mein Leib."  
Und er nahm den Kelch  
und dankete, gab ihnen den und sprach:  
"Trinket alle daraus;  
das ist mein Blut des neuen Testaments,  
welches vergossen wird  
für viele zu Vergebung der Sünden.  
Ich sage euch:  
Ich werde von nun an nicht mehr  
von diesem Gewächs des Weinstocks trinken  
bis an den Tag, da ich's neu trinken werde mit euch  
in meines Vaters Reich."

### 12. Recitativo-Soprano

Wiewohl mein Herz in Tränen schwimmt,  
daß Jesus von mir Abschied nimmt,  
so macht mich doch sein Testament erfreut:  
Sein Fleisch und Blut, o Kostbarkeit,  
vermacht er mir in meine Hände.  
Wie er es auf der Welt mit denen Seinen  
nicht böse können meinen,  
so liebt er sie bis an das Ende.

### 13. Aria-Soprano

Ich will dir mein Herze schenken,  
senke dich, mein Heil, hinein!  
Ich will mich in dir versenken;  
ist dir gleich die Welt zu klein,  
ei so sollst du mir allein  
mehr als Welt und Himmel sein.

### 14. Matthäus 26.30 ~ 32

Und da sie den Lobgesang gesprochen hatten,  
gingen sie hinaus an den Ölberg,  
Da sprach Jesus zu ihnen:  
"In dieser Nacht werdet ihr euch alle ärgern an mir.  
Denn es stehet geschrieben:  
-Ich werde den Hirten schlagen,  
und die Schafe der Herde werden sich zerstreuen.-  
Wenn ich aber auferstehe,  
will ich vor euch hingehen in Galiläam."

### 15. Choral

Erkenne mich, mein Hüter,  
mein Hirte, nimm mich an!  
Von dir, Quell aller Güter,  
ist mir viel Gut's getan.  
Dein Mund hat mich gelabet  
mit Milch und süßer Kost,

「取って食べなさい、これは私の体である。」  
また杯を取り  
感謝して、彼らに与えて言った。  
「皆この杯より飲みなさい。  
これは新しい契約のための私の血である。  
私の血が流されることによって  
多くの人のために罪の赦しを得るためである。  
私はお前たちに言うておく。  
私は今後ひと口も  
葡萄の実から出来るものを飲むことはない。  
来たるべき日に、お前たちと共に新しいものを、  
私の父の国で飲むまでは。」

### 12. レチタティーヴォ・ソプラノ

いかに私の心が涙の中を泳ぎ、  
イエスが私に別れを告げられたのを悲しむとも、  
イエスの遺言はなお喜ばしいものである。  
イエスの御体と御血、おお尊きものを、  
私の両手に遺してください。  
イエスがこの世で弟子たちを、  
決して憎んだことがないように、  
弟子たちへの愛は世の終りの日にまで及ぶ。

### 13. アリア・ソプラノ

私はあなたに私の心を捧げます。  
宿ってください、私の救いよ、心の奥に。  
私はあなたの中に身を沈めます。  
たとえ全世界さえあなたを受け入れられなくとも、  
そう、あなたは私にのみ  
世にも天にも勝る存在です。

### 14. マタイ 26.30 ~ 32

そして彼らは讃美歌を歌った後、  
オリブ山に出かけた。  
そこでイエスが弟子たちに言った。  
「今晚お前たちは皆私につまずくだろう。  
聖書にこう記されているからだ。  
『私は羊飼いを打つ。  
すると羊の群は散り散りになる。』  
しかし私が蘇ったら、  
お前たちより先にガリラヤに行っているだろう。」

### 15. コラール

私を認めてください、私の守り主よ、  
私の牧者よ、私を受け入れてください。  
全ての善の源であるあなたによって  
多くの良い事が私になされました。  
あなたの口は私を励まします、  
あたたかも乳や甘いもののように。

**dein Geist hat mich begabet  
mit mancher Himmelslust.**

### 16. Matthäus 26.33 ~ 35

Petrus aber antwortete und sprach zu ihm:  
"Wenn sie auch alle sich an dir ärgerten,  
so will ich doch mich nimmermehr ärgern."  
Jesus sprach zu ihm:  
"Wahrlich, ich sage dir:  
In dieser Nacht, ehe der Hahn krähet,  
wirst du mich dreimal verleugnen."  
Petrus sprach zu ihm:  
"Und wenn ich mit dir sterben müßte,  
so will ich dich nicht verleugnen."  
Desgleichen sagten auch alle Junger.

### 17. Choral

**Ich will hier bei dir stehen;  
verachte mich doch nicht!  
Von dir will ich nicht gehen,  
wenn dir dein Herze bricht.  
Wenn dein Herz wird erblassen  
im letzten Todesstoß,  
alsdenn will ich dich fassen  
in meinen Arm und Schoß.**

### 18. Matthäus 26.36 ~ 38

Da kam Jesus mit ihnen zu einem Hofe,  
der hieß Gethsemane,  
und sprach zu seinen Jungern:  
"Setzet euch hie,  
bis daß ich dort hingehere und bete."  
Und nahm zu sich Petrus  
und die zween Söhne Zebedäi  
und fing an zu trauern und zu zagen.  
Da sprach Jesus zu ihnen:  
"Meine Seele ist betrübt bis an den Tod,  
bleibet hie und wachet mit mir."

### 19. Recitativo-Tenore & Choral

O Schmerz! hier zittert das gequälte Herz;  
wie sinkt es hin, wie bleicht sein Angesicht!  
**Was ist die Ursach' aller solcher Plagen?**  
Der Richter führt ihn vor Gericht.  
Da ist kein Trost, kein Helfer nicht  
**Ach! meine Sünden haben dich geschlagen;**  
Er leidet alle Höllenqualen,  
er soll vor fremden Raub bezahlen.  
**Ich, ach Herr Jesu, habe dies verschuldet,**

**あなたの霊は私に与えてくださる。  
溢れるほどの天上の喜びを。**

### 16. マタイ 26.33 ~ 35

ペテロが答えてイエスに言った。  
「たとえ皆があなたにつまずいても、  
私は決してつまずきません。」  
イエスはペテロに言った。  
「まことに、私はお前に言っておく。  
今晚、鶏が鳴く前に、  
お前は三度私を知らないと言うだろう。」  
ペテロはイエスに言った。  
「たとえ私があなたと共に死なねばならなくとも、  
私はあなたを知らないなどとは言いません。」  
同様のことを全ての弟子たちも言った。

### 17. コラール

**私はここ、あなたの傍にとどまります。  
私を侮らないでください。  
私はあなたから去ることはありません。  
たとえあなたの心が破れても。  
たとえあなたの心が  
死の一突きに青ざめても、  
その時こそ私はあなたを抱きましょう。  
私の腕と胸の中に。**

### 18. マタイ 26.36 ~ 38

さてイエスは弟子たちと共に、  
ゲッセマネという所に来て、  
弟子たちに言った。  
「お前たちはここに座っていなさい、  
私があちらに行って祈っている間。」  
そしてペテロとゼベダイの子二人とを連れて行き、  
悲しみ悩み始められた。  
そこでイエスは彼らに言った。  
「私の心は憂いのあまりに死ぬほどである。  
皆ここに留まり私と共に目を覚ましていなさい。」

### 19. レチタティーヴォ・テノールとコラール

おお痛まし！ さいなまれた心は震える。  
なんと沈んだ御心、なんと青ざめた御顔！  
**全てのそれほどの苦しみの元は何か？**  
裁き主は彼を裁きの場に引き出す。  
そこには慰めもなく、助ける者もない。  
**ああ、私の罪があなたを打ったのだ。**  
彼は種々の地獄の責めに苦しまれ、  
他人の盗みの罪を償われた。  
**私が、ああ主イエスよ、この罪を受けるべきだ、**

**was du erduldet.**

Ach könnte meine Liebe dir,  
mein Heil, dein Zittern und dein Zagen  
vermindern oder helfen tragen,  
wie gerne blieb' ich hier!

## **20.Aria-Tenore & Chorus**

Ich will bei meinem Jesu wachen,  
**so schlafen unsre Sünden ein.**

Meinen Tod büßet seine Seelennot,  
sein Trauren machet mich voll Freuden.

**Drum muß uns sein verdienstlich Leiden  
recht bitter und doch süße sein.**

## **21.Matthäus 26.39**

Und ging hin ein wenig,  
fiel nieder auf sein Angesicht und betete und sprach:地にひれ伏し祈って言った。

"Mein Vater, ist's möglich,  
so gehe dieser Kelch von mir;  
doch nicht wie ich will,  
sondern wie du willst."

## **22.Recitativo-Basso**

Der Heiland fällt vor seinem Vater nieder;  
dadurch erhebt er mich und alle von unsern Falle  
hinauf zu Gottes Gnade wieder.

Er ist bereit,  
den Kelch, des Todes Bitterkeit zu trinken,  
in welchen Sünden dieser Welt gegossen sind  
und häßlich stinken,  
weil es dem lieben Gott gefällt.

## **23.Aria-Basso**

Gerne will ich mich bequemen,  
Kreuz und Becher anzunehmen,  
trink' ich doch dem Heiland nach.

Denn sein Mund,  
der mit Milch und Honig fließet,  
hat den Grund und des Leidens herbe Schmach  
durch den ersten Trunk versüßet.

## **24.Matthäus 26.40 ~ 42**

Und er kam zu seinen Jungern  
und fand sie schlafend und sprach zu ihnen:  
"Können ihr denn nicht eine Stunde mit mir wachen?"  
Wachet und betet,  
daß ihr nicht in Anfechtung fallet!  
Der Geist ist willig, aber das Fleisch ist schwach."

Zum andernmal ging er hin, betete und sprach:  
"Mein Vater, ist's nicht möglich,  
daß dieser Kelch von mir gehe,  
ich trinke ihn denn,

**あなたが耐えてくださるこの罪を。**

ああ、私の愛が、  
私の救いよ、あなたの憂いと悩みを  
和らげ、また分かち合えるならば、  
私はどんなに喜んでここに留まることか。

## **20.アリア・テノールと合唱**

私はイエスの傍で目覚めていよう。  
**そうすればわたしたちの罪は消えるだろう。**

イエスの魂の苦しみは私の死を償い  
イエスの悲しみは私を喜びに満たす。

**ゆえに私たちには彼の尊き苦難は、  
まことに辛いがしかし甘きものでもある。**

## **21.マタイ 26.39**

そして少し進み、  
「私の父よ、適うならば、  
この杯を私から去らせてください。  
しかし私の意志によってではなく、  
あなたの御心のままに。」

## **22.レチタティーヴォ・バス**

救い主が父の前にひれ伏された。  
これにより彼は私と全ての人を私たちの墮落の淵から  
神の恩恵に引き上げてくださった。  
彼の心は定まり、  
死の苦い杯を飲み干そうとしている。  
この世の罪がことごとく注がれ、  
悪臭を放つその杯を。  
それは愛しい神が定められたことだからだ。

## **23.アリア・バス**

私は喜んで定めに従い、  
十字架と苦い杯を受け入れ、  
私も救い主に続いて飲もう。  
なぜなら彼の、  
乳と蜜の流れ出る御口は、  
真実のものであり、苦しみのにがい屈辱は  
最初の一りで癒されるから。

## **24.マタイ 26.40 ~ 42**

さてイエスは弟子たちの所に来て、  
彼らが眠っているのを見て彼らに言った。  
「お前たちは一時も私と共に起きていられないのか？  
目を覚まして祈れ、  
誘惑に陥らないように！  
魂は熱いが、肉体は弱いからだ。」  
イエスは再びあちらに行き、祈って言った。  
「私の父よ、  
この杯を私から去らせることが出来ないのなら、  
私は杯を飲みますから、

so geschehe dein Wille."

## 25.Choral

Was mein Gott will, das g'scheh' allzeit,  
sein Will', der ist der beste.  
Zu helfen den'n er ist bereit,  
die an ihn gläuben feste.  
Er hilft aus Not, der fromme Gott,  
und züchtigt mit Maßen.  
Wer Gott vertraut, fest auf ihn baut,  
den will er nicht verlassen.

## 26.Matthäus 26.43 ~ 50

Und er kam und fand sie aber schlafend,  
und ihre Augen waren voll Schlaf's.  
Und er ließ sie und ging abermal hin  
und betete zum drittenmal  
und redete dieselbigen Worte.  
Da kam er zu seinen Jungern und sprach zu ihnen:  
"Ach! wollt ihr nun schlafen und ruhen?  
Siehe, die Stunde ist hie,  
daß des Menschen Sohn in der Sünder Hände  
überantwortet wird.  
Stehet auf, lasset uns gehen;  
siehe, er ist da, der mich verrät."  
Und als er noch redete,  
siehe, da kam Judas, der Zwölfen einer,  
und mit ihm eine große Schar  
mit Schwertern und mit Stangen  
von den Hohenpriestern und Ältesten des Volks.  
Und der Verräter hatte ihnen ein Zeichen gegeben  
und gesagt:  
"Welchen ich küssen werde,  
der ist's, den greifet!"  
Und alsbald trat er zu Jesu und sprach:  
"Gegrüßet seist du, Rabbi!"  
Und küssete ihn.  
Jesus aber sprach zu ihm:  
"Mein Freund, warum bist du kommen?"  
Da traten sie hinzu  
und legten die Hände an Jesum und griffen ihn.

## 27.Aria (Soprano/Alto) & Chorus

So ist mein Jesus nun gefangen.  
**Laßt ihn, haltet, bindet nicht!**  
Mond und Licht ist vor Schmerzen untergangen,  
weil mein Jesus ist gefangen.  
**Laßt ihn, haltet, bindet nicht!**  
**Laßt ihn, haltet, bindet nicht!**  
Sie führen ihn, er ist gebunden.  
**Sind Blitze, sind Donner**

あなたの思いを成就させてください。」

## 25.コラール

私の神が思われたことは常に成就される。  
その御心、それが最善だからだ。  
御父は常に備えてくださる。  
御父を堅く信じる者たちを救おうと。  
正しき神は、私たちを苦悩より救ってくださり、  
また程よく懲らしめられる。  
神に己れを委ね、堅く頼る者を、  
神は見捨てられることはない。

## 26.マタイ 26.43 ~ 50

そしてイエスは来て弟子たちが眠っていて、  
その眼は睡魔に満ちているのを知り、  
彼らをそのままにして再びあちらに行き、  
3度目の祈りを捧げ、  
同じ言葉を言われた。  
そしてイエスは弟子たちの所に来て彼らに言った。  
「ああ、お前たちは今だに眠り休もうとするのか？  
見よ、時が来て、  
人の子は罪人らの手に引き渡されようとしている。  
  
起きろ、さあ行こう。  
見よ、私を裏切る者はそこにいる。」  
そしてイエスがなお話している時に、  
見よ、十二弟子の一人ユダが、  
彼に従う多数の剣と警棒を携える衆、  
  
祭司長や民の長老らより遣わされた者らと共に来た。  
イエスを裏切るユダは彼らに合図を示すため  
言っておいた。  
「私が口づけする者、  
それがイエスだ。彼を捕えろ。」  
そしてユダは即座にイエスに歩み寄って言った。  
「ごきげんよう、先生！」  
そしてイエスに口づけした。  
するとイエスはユダに言った。  
「友よ、なぜ来たのか？」  
この時 人々が歩み寄って  
イエスに手をかけ、彼を捕えた。

## 27.アリア (ソプラノ / アルト) と合唱

そうして私のイエスは今や捕らわれた。  
**放せ、止めよ、縛るな!**  
月も光も嘆きのため沈んでしまった。  
私のイエスが捕らわれてしまったから。  
**放せ、止めよ、縛るな!**  
**放せ、止めよ、縛るな!**  
彼らはイエスを連れて行く。イエスは縛られている。  
**稲妻は、雷鳴は、**



**in Wolken verschwunden?  
Eröffne den feurigen Abgrund, o Hölle,  
zertrümmre, verderbe, verschlinge, zerschelle  
mit plötzlicher Wut  
den falschen Verräter, das mörderische Blut!**

### 28. Matthäus 26.51 ~ 56

Und siehe, einer aus denen,  
die mit Jesu waren, rekkete die Hand aus,  
und schlug des Hohenpriesters Knecht  
und hieb ihm ein Ohr ab.  
Da sprach Jesus zu ihm:  
"Stecke dein Schwert an seinen Ort;  
denn wer das Schwert nimmt,  
der soll durchs Schwert umkommen.  
Oder meinst du,  
daß ich nicht könnte meinen Vater bitten,  
daß er mir zuschickte mehr  
denn zwölf Legion Engel?  
Wie würde aber die Schrift erfüllet?  
Es muß also gehen."  
Zu der Stund' sprach Jesus zu den Scharen:  
"Ihr seid ausgegangen, als zu einem Mörder,  
mit Schwertern und mit Stangen, mich zu fahen;  
bin ich doch täglich bei euch gesessen  
und habe gelehret im Tempel,  
und ihr habt mich nicht gegriffen.  
Aber das ist alles geschehen,  
daß erfüllet würden die Schriften der Propheten."  
Da verließen ihn alle Junger und flohen.

### 29. Choral

**O Mensch, bewein' dein' Sünde groß,  
darum Christus sein's Vaters Schoß  
äußert und kam auf Erden;  
von einer Jungfrau rein und zart  
für uns er hie geboren ward,  
er wollt' der Mittler werden.  
Den Toten er das Leben gab  
und legt' darbei all' Krankheit ab,  
bis sich die Zeit herdrange,  
daß er für uns geopfert würd',  
trüg' unsrer Sünden schwere Bürd'  
wohl an dem Kreuze lange.**

雲に隠れてしまったのか?  
燃えさかる奈落を開け、おお地獄よ、  
打ち砕き、滅ぼしのみ尽くし、砕き散らせ、  
烈しき怒りにより  
この不実の裏切り者、人殺しの血を!

### 28. マタイ 26.51 ~ 56

すると見よ、弟子たちの一人、  
イエスと共に居た者の一人が、手を伸ばし、  
大祭司の下僕に切りかかり、  
その片耳を切り落とした。  
するとイエスは彼に言った。  
「お前の剣をその鞘に収めよ。  
剣を取る者は、  
剣により滅びるからだ。  
あるいはお前は、  
私が父に願って、  
十二軍団以上もの御使を、  
送ってもらうことも出来ないと思うのか?  
しかしそれでは聖書はどうして成就するのか?  
それは成就されねばならない。」  
更にイエスは民衆に向かって言った。  
「お前たちは人殺しに立ち向かうように、  
剣と警棒を携えて、私を捕えに来たのか。  
私はいつもお前たちの傍に座って、  
神殿で教えていたのに、  
お前たちは私を捕えなかったではないか。  
しかし全てがこのようになったのは、  
予言者らの記した言葉が成就されるためである。」  
そして弟子たちは皆イエスを見捨てて逃げ去った。

### 29. コラール

おお人よ、お前の罪の大きさを嘆け。  
ゆえにキリストは御父の膝元を離れ、  
この地上に来られた。  
清く優しい乙女より、  
私たちのためにこの世に生れ、  
仲介者となろうとしてください。  
死者に生命を与え、  
また全ての病を癒され、  
そうして時は迫り、  
彼は私たちのために犠牲となり、  
私たちの罪の重荷を負ってください、  
十字架の上で長い間。

## Zweiter Teil : 第 2 部

### 30. Aria-Alto & Chorus (Hohelied 6.1)

Ach, nun ist mein Jesus hin!

**Wo ist denn dein Freund hingegangen,  
o du Schönste unter den Weibern?**

Ist es möglich, kann ich schauen?

**Wo hat sich dein Freund hingewandt?**

Ach! mein Lamm in Tigerklauen,

ach! wo ist mein Jesus hin?

**So wollen wir mit dir ihn suchen.**

Ach! was soll ich der Seele sagen,  
wenn sie mich wird ängstlich fragen?

Ach! wo ist mein Jesus hin?

### 31. Matthäus 26.57 ~ 59

Die aber Jesum gegriffen hatten,  
führten ihn zu dem Hohenpriester Kaiphas,  
dahin die Schriftgelehrten und Ältesten  
sich versammelt hatten.

Petrus aber folgte ihm nach von ferne  
bis in den Palast des Hohenpriesters und ging hinein  
und setzte sich bei die Knechte,  
auf daß er sähe, wo es hinaus wollte.  
Die Hohenpriester aber und Ältesten  
und der ganze Rat suchten  
falsche Zeugnis wider Jesum,  
auf daß sie ihn töteten,  
und funden keines.

### 32. Choral

**Mir hat die Welt trüglich gericht't  
mit Lügen und mit falschem G'dicht,  
viel Netz und heimlich Strikke.  
Herr, nimm mein wahr in dieser G'fahr,  
b'hüt mich für falschen Tükken!**

### 33. Matthäus 26.60 ~ 63

Und wiewohl viel falsche Zeugen  
herzutraten, funden sie doch keins.  
Zuletzt traten herzu zween falsche Zeugen  
und sprachen:

"Er hat gesagt:

-Ich kann den Tempel Gottes abbrechen  
und in dreien Tagen denselben bauen.-"

Und der Hohepriester stund auf und sprach zu ihm:  
"Antwortest du nichts zu dem,  
das diese wider dich zeugen?"

Aber Jesus schwieg stille.

### 34. Recitativo-Tenore

Mein Jesus schweigt zu falschen Lügen stille,  
um uns damit zu zeigen,  
daß sein Erbarmens voller Wille

### 30. アリア・アルトと合唱(雅歌 6.1)

ああ、今や私のイエスは去った!

**あなたの恋人はどこに行ったのだろう?**

おお、女の中で最も美しい者よ。

私は(イエスを)見つけられるだろうか?

**あなたの恋人はどっちに向かったのか?**

ああ、虎の爪に囚われた私の子羊、

ああ、私のイエスはどこに行ったのか?

**では私たちもあなたと共に彼を探しましょう。**

ああ、私は魂にどう言うべきか、

その魂が私に不安げに尋ねたなら?

- ああ、私のイエスはどこに行ったのか? - と。

### 31. マタイ 26.57 ~ 59

さてイエスを捕えた者たちは、  
大祭司カヤバの所にイエスを連れて行った。  
そこには律法学者や長老たちが集まっていた。

ペテロは距離を置いてイエスの後を追ひ、  
大祭司の邸の中庭に入り、  
下僕たちの傍に座り、  
事の成り行きを見ることにした。  
さて祭司長や長老たちと  
会議の皆は偽りの証拠を探して、

イエスを死罪にしようとしたが、  
証拠は見つからなかった。

### 32. コラール

世の中は私を不当に裁いた。

嘘と偽りの言葉、

多くの網と密かな罠によって。

主よ、私を受け入れ、この危機の中、  
偽りの策略より私を守ってください!

### 33. マタイ 26.60 ~ 63

また多くの偽証者が入ってきたが、  
やはり彼らは証拠を見つけられなかった。  
最後に2人の偽証者が進み出て  
言った。

「この人は言った。

『私は神殿を壊して、

三日で建て直せる』と。」

大祭司は立ち上がってイエスに言った。

「お前は何も答えないのか?

この者たちのお前に不利な証言に。」

しかしイエスは沈黙したままだった。

### 34. レチタティーヴォ・テノール

私のイエスは嘘偽りに沈黙しておられる。  
これにより私たちに示してくださる。  
憐れみに満ちた彼の御心が

vor uns zum Leiden sei geneigt,  
und daß wir in dergleichen Pein  
ihm sollen ähnlich sein  
und in Verfolgung stille schweigen.

### 35. Aria-Tenore

Geduld, Geduld,  
wenn mich falschen Zungen stechen.  
Leid' ich wider meine Schuld  
Schimpf und Spott,  
ei, so mag der lieber Gott  
meines Herzens Unschuld rächen.

### 36. Matthäus 26.63 ~ 68

Und der Hohepriester antwortete und sprach zu ihm:  
"Ich beschwöre dich bei dem lebendigen Gott,  
daß du uns sagest,  
ob du seiest Christus, der Sohn Gottes?"  
Jesus sprach zu ihm:  
"Du sagest's.  
Doch sage ich euch: Von nun an wird's geschehen,  
daß ihr sehen werdet des Menschen Sohn  
sitzen zur Rechten der Kraft  
und kommen in den Wolken des Himmels."  
Da zerriß der Hohepriester seine Kleider und sprach:  
"Er hat Gott gelästert;  
was dürfen wir weiter Zeugnis?  
Siehe, itzt habt ihr seine Gotteslästerung gehört.  
Was dünket euch?"  
Sie antworteten und sprachen:  
**"Er ist des Todes schuldig!"**  
Da speieten sie aus in sein Angesicht  
und schlugen ihn mit Fäusten.  
Etlicher aber schlugen ihn ins Angesicht  
und sprachen:  
**"Weissage uns, Christe,  
wer ist's, der dich schlug?"**

### 37. Choral

Wer hat dich so geschlagen,  
mein Heil, und dich mit Plagen  
so übel zugericht'?

私たちのために苦しみを受け入れられたことを。  
そして私たちも同様の苦痛に会ったら、  
イエスがなされたように  
迫害の中でも沈黙すべきことを。

### 35. アリア・テノール

忍耐だ、忍耐だ、  
たとえ偽りの舌が私を刺しても。  
私は己の罪に向けられた  
辱しめと嘲りの苦難を受けよう。  
そう、その時は愛しい神が  
私の心の無実を晴らしてくださるだろう。

### 36. マタイ 26.63 ~ 68

すると大祭司が答えてイエスに言った。  
「私は生ける神の名においてお前に要求する、  
私たちに答えよ、  
お前は救い主、神の子なのか？」  
イエスは彼に言った。  
「あなたはそう言う。  
しかし私はあなた方に言うておく。今より後、  
あなた方は人の子が  
全能の者の右に座り、  
天の雲に乗って来るのを見るだろう。」  
すると大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。  
「こいつは神を汚した。  
私たちはこれ以上の証拠は必要ない。  
見よ、皆は今彼の神を冒瀆する言葉を聞いたはずだ。  
皆はどう思うか？」  
彼らは答えて言った。  
**「彼は死罪にすべきだ！」**  
そして彼らはイエスの顔に唾を吐きかけ、  
拳で彼を叩いた。  
また何人かは彼の顔を殴って  
言った。  
「当てて見ろ、救い主よ、  
お前を殴ったのは誰だ？」

### 37. コラール

誰があなたをこれほど叩いたのか、  
私の救いよ、また誰があなたを責め苦と共に、  
こんなに不当に裁いたのか？

**Du bist ja nicht ein Sünder  
wie wir und unsre Kinder;  
von Missetaten weißt du nicht.**

### 38. Matthäus 26.69 ~ 75

Petrus aber saß draußen im Palast;  
und es trat zu ihm eine Magd und sprach:  
"Und du warest auch mit dem Jesu aus Galiläa."  
Er leugnete aber vor ihnen allen und sprach:  
"Ich weiß nicht, was du sagest."  
Als er aber zur Tür hinausging,  
sahe ihn eine andere  
und sprach zu denen, die da waren;  
"Dieser war auch mit dem Jesu von Nazareth."  
Und er leugnete abermal und schwur dazu:  
"Ich kenne des Menschen nicht."  
Und über eine kleine Weile traten hinzu,  
die da stunden,  
und sprachen zu Petro:  
**"Warlich, du bist auch einer von denen;  
denn deine Sprach verrät dich."**  
Da hub er an, sich zu verfluchen und zu schwören:  
"Ich kenne des Menschen nicht."  
Und alsbald krähete der Hahn.  
Da dachte Petrus an die Worte Jesu,  
da er zu ihm sagte:  
"Ehe der Hahn krähen wird,  
wirst du mich dreimal verleugnen."  
Und ging heraus und weinete bitterlich.

### 39. Aria-Alto

Erbarme dich, mein Gott,  
um meiner Zähren willen!  
Schaue hier, Herz und Auge  
weint vor dir bitterlich.

### 40. Choral

**Bin ich gleich von dir gewichen,  
stell' ich mich doch wieder ein;  
hat uns doch dein Sohn verglichen  
durch sein' Angst und Todespein.  
Ich verleugne nicht die Schuld;  
aber deine Gnad' und Huld  
ist viel größer als die Sünde,  
die ich stets in mir befinde.**

### 41. Matthäus 27.1 ~ 6

Des Morgens aber hielten alle Hohepriester  
und die Ältesten des Volks einen Rat über Jesum,  
daß sie ihn töteten.  
Und bunden ihn, führten ihn hin  
und überantworteten ihn  
dem Landpfleger Pontio Pilato.  
Da das sahe Judas, der ihn verraten hatte,

あなたは全く罪人ではない。  
私たちとその子らのような罪人とは異なり  
あなたは悪事をご存じではない。

### 38. マタイ 26.69 ~ 75

さてペテロは大祭司邸の中庭に座っていたが、  
1人の女が彼に歩み寄って言った。  
「あんたもガリラヤのイエスと一緒にいたね。」  
しかしペテロは皆の前で打ち消して言った。  
「私はあなたの言うことがわからない。」  
ペテロが門まで出で行くと、  
更に1人の女が彼を見て、  
そこにいた人たちに言った。  
「この人もナザレのイエスと一緒にいた。」  
するとペテロは再び打ち消し、誓いを加えた。  
「私はそんな人は知らない。」  
するとしばしの間にそこらにいた人々が歩み寄って、  
ペテロに言った。  
**「確かにお前もイエスの仲間のひとりだ。  
お前の訛りがその証拠だ。」**  
そこでペテロは、呪いつつ誓い始めた。  
「私はそんな人は知らない。」  
すると、ちょうどその時鶏が鳴いた。  
ペテロはイエスの言葉を思い出した。  
その時イエスはペテロに言った。  
「鶏が鳴く前に、  
お前は三度私を知らないと言うだろう。」  
そして外に出でて激しく泣いた。

### 39. アリア・アルト

憐れんでください、私の神よ、  
私の涙ゆえに。  
こちらを御覧ください、心も目も  
あなたの前で激しく泣いています。

### 40. コラール

私は今はあなたから離れても、  
きっと私は再びあなたのもとに戻ろう。  
あなたの御子が私たちを贖ってくださったから、  
彼の悩みと死の苦しみによって。  
私は己の罪を否みはしない。  
しかしあなたの恵みと恩寵は  
私たちの罪よりずっと大きい。  
私の内にたえずある罪よりも。

### 41. マタイ 27.1 ~ 6

夜が明けると全ての祭司長や  
民の長老たちはイエスの処分について協議し、  
彼を殺すことに決めた。  
そしてイエスを縛り、彼を連行して、  
総督ポンチオ・ピラトに引き渡した。  
イエスを裏切ったユダは、

daß er verdammt war zum Tode, gereuete es ihn,  
und brachte herwieder die dreißig Silberlinge  
den Hohenpriestern und Ältesten und sprach:  
"Ich habe übel getan,  
daß ich unschuldig Blut verraten habe."

Sie sprachen:

**"Was gehet uns das an?**

**Da siehe du zu!"**

Und er warf die Silberlinge in den Tempel,  
hub sich davon, ging hin und erhängete sich selbst.  
Aber die Hohenpriester nahmen die Silberlinge  
und sprachen:

"Es taugt nicht,  
daß wir sie in den Gotteskasten legen,  
denn es ist Blutgeld."

#### **42.Aria-Basso**

Gebt mir meinen Jesum wieder!  
Seht, das Geld, den Mörderlohn,  
wirft euch der verlorne Sohn  
zu den Füßen nieder!

#### **43.Matthäus 27.7 ~ 14**

Sie hielten aber einem Rat  
und kauften einen Töpfersakker darum  
zum Begräbnis der Pilger.  
Daher ist derselbige Akker genennet der Blutakker  
bis auf den heutigen Tag.

Da ist erfüllet,  
das gesagt ist durch den Propheten Jeremias,  
da er spricht:

"Sie haben genommen dreißig Silberlinge,  
damit bezahlet ward der Verkaufte,  
welchen sie kauften von den Kindern Israel,  
und haben sie gegeben um einen Töpfersakker,  
als mir der Herr befohlen hat."

Jesus aber stund vor dem Landpfleger;  
und der Landpfleger fragte ihn und sprach:

"Bist du der Juden König?"

Jesus aber sprach zu ihm:

"Du sagest's."

Und da er verklagt war  
von den Hohenpriestern und Ältesten,  
antwortete er nichts.

Da sprach Pilatus zu ihm:

"Hörest du nicht,  
wie hart sie dich verklagen?"

Und er antwortete ihm nicht auf ein Wort, also,  
daß sich auch der Landpfleger sehr verwunderte.

#### **44.Choral**

**Befiehl du deine Wege  
und was dein Herze kränkt  
der allertreusten Pflege**

イエスに死の判決が下ったのを知り、後悔して、  
祭司長や長老たちに

銀貨三十枚を返して言った。

「私は悪いことをしてしまった。

私は罪のない人の血を売り渡したのだから。」

彼らは言った。

「私たちには関係ないことだ。

お前自身で始末しろ！」

するとユダは銀貨を神殿に投げ込み、  
そこから去り、かなたに行き、首を吊って自殺した。  
さて祭司長たちはこの銀貨を拾って  
言った。

「この銀貨を神殿の庫に納めるわけには行かない。

これは血塗られた金なのだから。」

#### **42.アリア・バス**

私のイエスを私に返せ！

見よ、その金、人殺しの報酬を、

救いのない息子は

お前たちの足元に投げ出したのだから。

#### **43.マタイ 27.7 ~ 14**

さて祭司長たちは協議の上、  
その銀貨で陶器師の畑を買い、  
巡礼者たちの墓地とした。

これによりその畑は、  
今日に至るまで血の畑と呼ばれている。

こうして、  
予言者エレミヤにて語られた言葉が成就した。

彼は言った。

「彼らは銀貨30枚を受け取った。

それはある買い物に支払われたもので、

買い物とはイスラエルの子らから買った人のことだ。

彼らは陶器師の畑と引換えにその銀貨を支払った。

これらは主が私に命じられた通りである。」

さてイエスは総督の前に立っていた。

総督はイエスに尋ねて言った。

「お前はユダヤ人の王なのか？」

イエスは総督に言った。

「あなたがそう言うのだ。」

そして彼への種々の訴えが  
祭司長や長老たちからなされたが、

イエスは何も答えなかった。

そこでピラトがイエスに言った。

「お前は聞こえないのか、

彼らがいかに厳しくお前を訴えているかを？」

しかしイエスはピラトにはひと言も答えなかったので、  
総督も大変不思議に思った。

#### **44.コラール**

**あなたの行くべき道と、  
あなたの心の患いを委ねよ、  
最も忠実なる守りで**

des, der den Himmel lenkt.  
Der Wolken, Luft und Winden  
gibt Wege, Lauf und Bahn,  
der wird auch Wege finden,  
da dein Fuß gehen kann.

#### 45. Matthäus 27.15 ~ 22

Auf das Fest aber hatte  
der Landpfleger Gewohnheit,  
dem Volk einen Gefangenen loszugeben,  
welchen sie wollten.  
Er hatte aber zu der Zeit einen Gefangenen,  
einen sonderlichen vor andern, der hieß Barrabas.  
Und da sie versammelt waren,  
sprach Pilatus zu ihnen:  
"Welchen wollet ihr, daß ich euch losgebe?  
Barrabam oder Jesum,  
von dem gesagt wird, er sei Christus?"  
Denn er wußte wohl,  
daß sie ihn aus Neid überantwortet hatten.  
Und da er auf dem Richtstuhl saß,  
schickete sein Weib zu ihm und ließ ihm sagen:  
"Habe du nichts zu schaffen mit diesem Gerechten;  
ich habe heute viel erlitten im Traum  
von seinetwegen!"  
Aber die Hohenpriester und die Ältesten  
überredeten das Volk,  
daß sie um Barrabas bitten sollten  
und Jesum umbrächten.  
Da antwortete nun der Landpfleger  
und sprach zu ihnen:  
"Welchen wollt ihr unter diesen zweien,  
den ich euch soll losgeben?"  
Sie sprachen:  
**"Barrabam!"**  
Pilatus sprach zu ihnen:  
"Was soll ich denn machen mit Jesu,  
von dem gesagt wird, er sei Christus?"  
Sie sprachen alle:  
**"Laß ihn kreuzigen!"**

#### 46. Choral

Wie wunderbarlich ist doch diese Strafe!  
Der gute Hirte leidet für die Schafe,  
die Schuld bezahlt der Herre, der Gerechte,  
für seine Knechte.

#### 47. Matthäus 27.23

Der Landpfleger sagte:  
"Was hat er denn Übels getan?"

#### 48. Recitativo-Soprano

Er hat uns allen wohlgetan,  
den Blinden gab er das Gesicht,

天を治める方に。  
雲、大気、そして風は  
私たちの進むべき道を示す。  
また新たな道も見つかるだろう、  
あなたの足が進める所にも。

#### 45. マタイ 27.15 ~ 22

ところで祭の間、総督は習わして、  
民衆の望む囚人のひとりをお釈免することになっていた。  
その時ピラトのもとにはひとりの囚人がいた。  
彼は並み外れて評判な者で、その名をバラバと言った。  
そこで人々が集まった時、  
ピラトは彼らに言った。  
「お前たちはどちらの赦免を望むか？  
バラバか、それともイエス、  
救い主と言われる者か？」  
ピラトは全てを良く心得ていた。  
彼らがイエスを渡したのは妬みによるものと。  
またピラトが裁きの席に着いた時、  
ピラトの妻が人を遣わしてピラトに伝えた。  
「この義人に関わらないでください。  
私は昨夜夢でこの義人のため大層うなされました！」

しかし祭司長や長老たちは民衆を説き伏せ、  
バラバの赦免とイエスの処刑を請うように備えた。

総督は答えて  
彼らに言った。  
「お前たちはこの二人の内どちらの  
赦免を望むか？」  
彼らは言った。  
「バラバを！」  
ピラトは彼らに言った。  
「では私はイエスをどうすべきか、  
救い主と言われる彼は？」  
彼らは皆言った。  
「十字架に付けろ！」

#### 46. コラール

なんと驚くべき刑罰！  
良い羊飼いが羊の群のために苦しみ、  
正しき人である主が、罪を償われる、  
彼の下僕らのために。

#### 47. マタイ 27.23

総督が言った。  
「では彼はどんな悪事をしたのか？」

#### 48. レチタティーヴォ・ソプラノ

彼は私たちにあらゆる良い事をしてくださった。  
目の見えない者に視力を与え、

die Lahmen macht' er gehend,  
er sagt' uns seines Vaters Wort,  
er trieb die Teufel fort,  
Betrübte hat er aufgericht't,  
er nahm die Sünder auf und an.  
Sonst hat mein Jesus nichts getan.

#### 49.Aria-Soprano

Aus Liebe will mein Heiland sterben,  
von einer Sünde weiß er nichts,  
daß das ewige Verderben  
und die Strafe des Gerichts  
nicht auf meiner Seele bliebe.

#### 50.Matthäus 27.23 ~ 26

Sie schriegen aber noch mehr und sprachen:

**"Laß ihn kreuzigen!"**

Da aber Pilatus sahe, daß er nichts schaffete,  
sondern daß ein viel größer Getümmel ward,  
nahm er Wasser

und wusch die Hände vor dem Volk und sprach:

"Ich bin unschuldig an dem Blut dieses Gerechten,  
sehst ihr zu."

Da antwortete das ganze Volk und sprach:

**"Sein Blut komme über uns und unsre Kinder."**

Da gab er ihnen Barrabam los:

aber Jesum ließ er geißeln

und überantwortete ihn, daß er gekreuziget würde.

#### 51.Recitativo-Alto

Erbarm es Gott!

Hier steht der Heiland angebunden.

O Geißelung, o Schläg', o Wunden!

Ihr Henker, haltet ein!

Erweicht euch der Seelen Schmerz,  
der Anblick solches Jammers nicht?

Ach ja! ihr habt ein Herz,

das muß der Martersaule gleich

und noch viel härter sein.

Erbarmt euch, haltet ein!

#### 52.Aria-Alto

Können Tränen meiner Wangen

nichts erlangen,

o, so nehmt mein Herz hinein!

Aber laßt es bei den Fluten,

wenn die Wunden milde bluten,

auch die Opferschale sein!

#### 53.Matthäus 27.27 ~ 30

Da nahmen die Kriegsknechte des Landpflegers

Jesum zu sich in das Richthaus

und sammelten über ihn die ganze Schar

und zogen ihn aus,

足萎えを歩けるようにし、  
私たちに彼の父なる神の言葉を語り、  
悪魔を追い払ってくださった。

彼は悲しむ者を慰め、

罪人を受け入れられた。

私のイエスは他には何もなさらなかった。

#### 49.アリア・ソプラノ

愛ゆえに私の救い主は死のうとされている。

主は罪ひとつご存じなのに。

それは永遠の滅びと

裁きの刑罰が

私の魂に及ばないようにしてくださるためだ。

#### 50.マタイ 27.23 ~ 26

すると彼らは一層激しく叫んで言った。

**「十字架に付けろ！」**

ピラトはもはや手に負えなくなり、

かえって暴動が起きそうなのを見て、

水を取り、

群衆の前で手を洗って言った。

「この義人の血について私は責任を負わない。

お前たちで始末しろ。」

すると全民衆が答えて言った。

**「彼の血の責任は私たちと子孫に来てよい。」**

そこでピラトは民衆にバラバの赦免を示し、

イエスを鞭打たせ、

彼を十字架に付けるため引き渡した。

#### 51.レチタティーヴォ・アルト

神の憐れみを！

ここに救い主は縛られて立っておられる。

おお鞭打ち、おお殴打、おお傷口！

刑吏よ、止めろ！

心の痛みが手加減をさせないのか、

このような悲惨な光景を目にして。

そう、お前たちにも心はあるが、

それは拷問の柱のように、

あるいはそれ以上に頑なのだろう。

憐れんでくれ、止めろ！

#### 52.アリア・アルト

涙が私の頬に

流れ落ちなくても、

おお、私の心を受け入れてください！

しかし私の心を血の流れの傍に置いて、

主の御傷に血がにじんだなら、

その血を受ける献げの器となしてください！

#### 53.マタイ 27.27 ~ 30

さて総督の兵卒たちは

イエスを総督官邸に引き連れ、

全部隊をまわりに集め、

イエスの衣を剥ぎ、

und legten ihm einen Purpurmantel an  
und flochten eine dornene Krone  
und setzten sie auf sein Haupt  
und ein Rohr in seine rechte Hand  
und beugten die Knie vor ihm,  
und spotteten ihn und sprachen:  
"Gegrüßet seist du, Judenkönig!"  
Und speieten ihn an und nahmen das Rohr  
und schlugen damit sein Haupt.

#### 54. Choral

1. O Haupt voll Blut und Wunden,  
voll Schmerz und voller Hohn,  
o Haupt, zu Spott gebunden  
mit einer Dornenkrone,  
o Haupt, sonst schön gezieret  
mit höchster Ehr' und Zier,  
jetzt aber hoch schimpfiet,  
gegrüßet seist du mir!
2. Du edles Angesichte,  
dafür sonst schrickt und scheut  
das große Weltgewichte,  
wie bist du so bespeit,  
wie bist du so erbleichet!  
Wer hat dein Augenlicht,  
dem sonst kein Licht nicht gleichet,  
so schändlich zu gericht't?

#### 55. Matthäus 27.31 ~ 32

Und da sie ihn verspottet hatten,  
zogen sie ihm den Mantel aus  
und zogen ihm seine Kleider an  
und führten ihn hin, daß sie ihn kreuzigten.  
Und indem sie hinausgingen,  
funden sie einen Menschen von Kyrene  
mit Namen Simon;  
den zwungen sie, daß er ihm sein Kreuz trug.

#### 56. Recitativo-Basso

Ja freilich will in uns das Fleisch und Blut  
zum Kreuz gezwungen sein;  
je mehr es unsrer Seele gut,  
je herber geht es ein.

#### 57. Aria-Basso

Komm, süßes Kreuz, so will ich sagen,  
mein Jesu, gib es immer her!  
Wird mir mein Leiden einst zu schwer,  
so hilfst du mir es selber tragen.

#### 58. Matthäus 27.33 ~ 44

Und da sie an die Stätte kamen  
mit Namen Golgatha,  
das ist verdeutschet "Schädelstätt",

緋色の上衣を彼に着せ、  
そして茨の冠を編み、  
それをイエスの頭に乘せ、  
彼の右手に葦を持たせ、  
かつ彼の前にひざまずき、  
彼を嘲って言った。  
「ごきげんよう、ユダヤの王様！」  
そしてイエスに唾を吐きかけ、葦を取って  
彼の頭を叩いた。

#### 54. コラール

1. おお御頭は血と傷と、  
痛みと辱かしめにまみれている。  
おお御頭には、嘲りのために結われた  
茨の冠がのせられている。  
おお御頭、さもなくば美しく  
この上ない誉れと誇りに飾られているはずが、  
今はひどい侮辱を受けられている、  
ごきげんようなどと言われて。
2. あなたの気高い御顔よ、  
それゆえにいつもなら  
世の大いなる権威も恐れおののくものを、  
どれほどあなたは嘲られ、  
どれほどあなたは青ざめていることか。  
誰があなたの眼の光を、  
どんな光にも比べるもののない眼の光を、  
これほどひどく汚したのか？

#### 55. マタイ 27.31 ~ 32

そして彼らはイエスを嘲った後に、  
上衣を脱がせて、  
元の衣を着せ、  
イエスを十字架に付けるために連れて行った。  
さて彼らが外に出ると、  
シモンというクレネ人を目にとめ、  
彼に強要して、イエスの十字架を彼に負わせた。

#### 56. レチタティーヴォ・バス

そう、まことに私たちの中の血肉は  
十字架を強いられるためにある。  
私たちの魂に良いものほど、  
その味は苦くなるのだから。

#### 57. アリア・バス

来たれ、甘い十字架、と私は言おう、  
私のイエスよ、それをいつでも負わせてください！  
私の苦難があまりに重い時は、  
私が自ら背負うのを手伝ってください。

#### 58. マタイ 27.33 ~ 44

こうして彼らはゴルゴタという所に着いた。  
それは訳せば「髑髏の所」となる。



gaben sie ihm Essig zu trinken  
mit Gallen vermischt;  
und da er's schmeckte, wollte er's nicht trinken.  
Da sie ihn aber gekreuziget hatten,  
teilten sie seine Kleider und wurfen das Los darum,  
auf daß erfüllet würde,  
das gesagt ist durch den Propheten:  
"Sie haben meine Kleider unter sich geteilet,  
und über mein Gewand  
haben sie das Los geworfen."  
Und sie saßen allda und hüteten sein.  
Und oben zu seinen Häupten hefteten sie  
die Ursach seines Todes beschrieben,  
nämlich:"Dies ist Jesus, der Juden König."  
Und da wurden zween Mörder  
mit ihm gekreuziget,  
einer zur Rechten und einer zur Linken.  
Die aber vorübergingen, lästerten ihn  
und schüttelten ihre Köpfe und sprachen:  
**"Der du den Tempel Gottes zerbrichst  
und bauest ihn in dreien Tagen,  
hilf dir selber! Bist du Gottes Sohn,  
so steig herab vom Kreuz!"**  
Desgleichen auch die Hohenpriester spoteten sein  
samt den Schriftgelehrten und Ältesten  
und sprachen:  
**"Andern hat er geholfen  
und kann ihm selber nicht helfen.  
Ist er der König Israel,  
so steige er nun vom Kreuz,  
so wollen wir ihm glauben.  
Er hat Gott vertrauet,  
der erlöse ihn nun, lüsted's ihn;  
denn er hat gesagt: -Ich bin Gottes Sohn.-"**  
Desgleichen schmäheten ihn auch die Mörder,  
die mit ihm gekreuziget waren.

### 59. Recitativo-Alto

Ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!  
Der Herr der Herrlichkeit  
muß schimpflich hier verderben,  
der Segen und das Heil der Welt  
wird als ein Fluch an's Kreuz gestellt.

そこで彼らはイエスに苦よもぎを混ぜた葡萄酒を与えた。  
するとイエスはこれを舐めたが、飲もうとはしなかった。  
兵卒たちはイエスを十字架に付けた後、  
イエスの衣をくじ引きで分けた。  
予言者によって言われたことが成就するためである。

「彼らは私の衣を仲間内で分け、  
私の服についてはくじ引きを行った。」

そして兵卒たちはそこに座り、イエスを見張った。  
またイエスの頭の上には、  
死刑の罪状書きが掲げられた。  
すなわち、「この者はイエス、ユダヤ人の王」と。  
更に2人の人殺しが

イエスと共に十字架に付けられた。  
一人は右に、一人は左に。  
通りかかった人々は、イエスを罵り、  
己が頭を振って言った。  
**「神殿を壊して  
三日で建て直す者よ、  
自分を救ってみよ！ お前が神の子なら、  
十字架から降りてこい！」**

また同様に祭司長らも  
律法学者や長老らとともに彼を嘲って言った。

「彼は他人を救ったのに、  
彼自身を救うことは出来ない。  
彼がイスラエルの王ならば、  
十字架より直ちに降りて来るだろう。  
そうすれば私たちは彼を信じよう。  
彼は神を頼っているのだから、  
神は今すぐ彼を救うだろう。神がお望みなら。  
彼は言ったのだから、『私は神の子だ』と。」  
共に十字架に付けられたる人殺し共も、  
同様にイエスを罵った。

### 59. レチタティーヴォ・アルト

ああゴルゴタよ、呪われしゴルゴタよ！  
栄光の主は嘲られてここで滅びねばならないからだ。

世の祝福と救いとなる方が  
呪われて十字架に付けられる。

Der Schöpfer Himmels und der Erden  
soll Erd' und Luft entzogen werden.  
Die Unschuld muß hier schuldig sterben,  
das gehet meiner Seele nah;  
ach Golgatha, unsel'ges Golgatha!

### 60. Aria-Alto & Chorus

Sehet, Jesus hat die Hand,  
uns zu fassen, ausgespannt,  
kommt! -**Wohin?**- in Jesu Armen.  
sucht Erlösung, nehmt Erbarmen,  
suchet! -**Wo?**- in Jesu Armen.  
Lebet, sterbet, ruhet hier,  
ihr verläß'nen Kuchlein ihr,  
bleibet -**Wo?**- in Jesu Armen.

### 61. Matthäus 27.45 ~ 50

Und von der sechsten Stunde an  
war eine Finsternis über das ganze Land  
bis zu der neunten Stunde.  
Und um die neunte Stunde schrie Jesus laut  
und sprach:  
"Eli, Eli, lama, lama, asabthani?"  
Das ist:  
"Mein Gott, mein Gott, warum  
hast du mich verlassen?"  
Etliche aber, die da stunden,  
da sie das hörten, sprachen sie:  
"**Der rufet dem Elias!**"  
Und bald lief einer unter ihnen,  
nahm einen Schwamm und füllte ihn mit Essig  
und steckte ihn auf ein Rohr und tränkete ihn.  
Die andern aber sprachen:  
"**Halt! halt! laß sehen,  
ob Elias komme und ihm helfe?**"  
Aber Jesus schrie abermal laut, und verschied.

### 62. Choral

**Wenn ich einmal soll scheiden,  
so scheid nicht von mir,  
wenn ich den Tod soll leiden,  
so tritt du denn herfür!  
Wenn mir am allerbängsten  
wird um das Herze sein,  
so reiße mich aus den Ängsten  
kraft deiner Angst und Pein!**

### 63. Matthäus 27.51 ~ 57

Und siehe da,  
der Vorhang im Tempel zerriß in zwei Stück'  
von oben an bis unten aus.  
Und die Erde erbebete,  
und die Felsen zerrissen,  
und die Gräber täten sich auf,

天地の創造主が  
大地と大気を奪われようとしている。  
罪のない者がここで罪を負わされて死なねばならず、  
それが私の魂を悲しませる。  
ああゴルゴタよ、呪われしゴルゴタよ！

### 60. アリア・アルトと合唱

見よ、イエスが御手を広げて、  
私たちを抱こうとなさるのを。  
来たれ！ - どこへ？ - イエスの御腕に。  
救いを求め、憐れみを受けよ、  
求めよ！ - どこに？ - イエスの御腕に。  
生きよ、死ね、ここに憩え、  
お前たち、見捨てられた雛たちよ、  
留まれ、 - どこに？ - イエスの御腕に。

### 61. マタイ 27.45 ~ 50

さて昼の6時(今日の12時)から  
闇が全地を覆い、  
それが9時(今日の3時)まで続いた。  
そして9時頃イエスは大声で叫んで  
言った。  
「エリ、エリ、ラマ、ラマ、アザプタニ？」  
それは訳すところなる。  
「私の神、私の神、  
なぜ私を見捨てられたのか？」  
するとそこに居た者の内の、  
数人がこれを聞いて、言った。  
「これはエリヤを呼んでいるのだ！」  
するとその中の一人がすぐに走って行き、  
海綿を取って酸い葡萄酒を含ませ、  
それを葦の先に付けてイエスに飲まそうとした。  
しかし他の人たちが言った。  
「待て！ 待て！ 見届けよう、  
エリヤが来て彼を救うがどうかを。」  
しかしイエスは再び大声で叫んで、息をひきとられた。

### 62. コラール

いつか私が死ぬ時も、  
私から離れないでください。  
私が死ゆえに苦しむ時、  
あなたが近くまで来てくださいますように！  
あらゆる不安が  
私の心に宿る時、  
私をこの不安から引き離してください、  
あなたが耐えた不安と苦痛によって。

### 63. マタイ 27.51 ~ 57

すると、見よ、  
神殿の幕が真二つに  
上から下まで裂けた。  
更に地が揺れ、  
岩が割れ、  
墓が開いて、

und stunden auf viel Leiber der Heiligen,  
die da schliefen,  
und gingen aus den Gräbern  
nach seiner Auferstehung  
und kamen in die heilige Stadt  
und erschienen vielen.  
Aber der Hauptmann und die bei ihm waren  
und bewahreten Jesum,  
da sie sahen das Erdbeben und was da geschah,  
erschrakten sie sehr und sprachen:  
**"Wahrlich, dieser ist Gottes Sohn gewesen."**  
Und es waren viel Weiber da,  
die von ferne zusahen,  
die da waren nachgefolgt aus Galiläa  
und hatten ihm gedient,  
unter welchen war Maria Magdalena,  
und Maria, die Mutter Jacobi und Joses,  
und die Mutter der Kinder Zebedäi,  
Am Abend aber kam ein reicher Mann  
von Arimathia, der hieß Jeseph,  
welcher auch ein Junger Jesu war,  
der ging zu Pilato  
und bat ihn um den Leichnam Jesu.  
Da befahl Pilatus, man sollte ihm ihn geben.

#### 64. Recitativo-Basso

Am Abend, da es kühle war,  
ward Adams Fallen offenbar;  
am Abend drückt ihn der Heiland nieder.  
Am Abend kam die Taube wieder  
und trug ein Ölblatt in dem Munde.  
O schöne Zeit! O Abendstunde!  
Der Friedensschluß ist nun mit Gott gemacht,  
denn Jesus hat sein Kreuz vollbracht.  
Sein Leichnam kömmt zur Ruh,  
ach! liebe Seele, bitte du,  
geh, lasse dir den toten Jesum schenken,  
o heilsames, o köstlichs Angedenken!

#### 65. Aria-Basso

Mache dich, mein Herze, rein,  
ich will Jesum selbst begraben.  
Denn er soll nunmehr in mir  
für und für seine süße Ruhe haben.  
Welt, geh aus, laß Jesum ein!

#### 66. Matthäus 27.59 ~ 66

Und Joseph nahm den Leib  
und wickelte ihn in ein rein Leinwand  
und legte ihn in sein eigen neu Grab,  
welches er hatte lassen in einen Fels hauen,  
und wälzete einen großen Stein  
vor die Tür des Grabes und ging davon.  
Es war aber allda Maria Magdalena

眠っていた多くの聖者の体が蘇り、  
イエスが復活した後に墓を出て  
聖なる都にやって来て  
多くの人々の前に現われた。  
さて百卒長や彼と共に居て  
イエスを見張っていた者たちは、  
地震とこれらの出来事を見て、  
ひどく恐れて言った。  
**「本当に彼は神の子だった。」**  
また多くの女が、  
遠くから見ていた。  
彼女たちはガリラヤよりイエスに付いて来て、  
イエスに仕えた女たちである。  
その中にはマグダラのマリヤや、  
ヤコブとヨセフの母マリヤ、  
またゼベダイの子らの母も居た。  
夕暮れにあるアリマタヤ人の金持ちで  
ヨセフと言う名の人が来た。  
彼もかつてイエスの弟子だった。  
ヨセフはピラトの所へ行き  
イエスの遺体の引取りを願い出た。  
そこでピラトは、イエスの遺体を渡すよう命じた。

#### 64. レチタティーヴォ・バス

夕暮れ、涼しくなった頃、  
アダムの墮落が明らかになった。  
夕暮れに救い主は彼を鎮められた。  
夕暮れに鳩が戻り、  
口にオリブの葉を携えて来た。  
おお美しき時！ おお夕暮れ時よ！  
平和の契りが今や神と結ばれた。  
イエスが十字架を果たされたからだ。  
イエスの御体は今憩いに付かれる。  
ああ、愛しい魂よ、請うがよい、  
行って、死せるイエスをもらい受けよ。  
おお救い、おお尊い形見よ！

#### 65. アリア・バス

私の心よ、自ら清めよ、  
私は自らイエスを葬ろう。  
イエスは今より私の内にて  
永遠に甘い憩いに付かれる。  
この世は出て行け！ イエスがお入りください。

#### 66. マタイ 27.59 ~ 66

ヨセフはイエスの遺体を受け取って、  
きれいな亜麻布に包み、  
自分が持つ新しい墓に納めた。  
それは岩を人手で掘らせて作ったものである。  
更に墓の入り口には大きな石を転がして来て置き、  
そこを去った。  
そこにはマグダラのマリヤと

und die andere Maria,  
die setzten sich gegen das Grab.  
Des andern Tages, der da folget nach dem Rüsttage,  
kamen die Hohenpriester und Pharisäer  
sämtlich zu Pilato und sprachen:

**"Herr, wir haben gedacht,  
daß dieser Verführer sprach, da er noch lebete:  
-Ich will nach dreien Tagen wieder auferstehen.-  
Darum befiel,  
daß man das Grab verwahre  
bis an den dritten Tag,  
auf daß nicht seine Junger kommen  
und stehlen ihn  
und sagen zu dem Volk:  
-Er ist auferstanden von den Toten,-  
und werde der letzte Betrug ärger  
denn der erste!"**

Pilatus sprach zu ihnen:  
"Da habt ihr die Hüter,  
gehets hin und verwahret's, wie ihr's wisset!"  
Sie gingen hin  
und verwahreten das Grab mit Hütern  
und versiegelten den Stein.

### 67. Recitativo & Chorus

Nun ist der Herr zur Ruh gebracht.  
**Mein Jesu, gute Nacht!**  
Die Müh ist aus, die unsre Sünden ihm gemacht.  
**Mein Jesu, gute Nacht!**  
O selige Gebeine,  
seht, wie ich euch mit Buß und Reu beweine,

daß euch mein Fall in solche Not gebracht!

**Mein Jesu, gute Nacht!**  
Habt lebenslang vor euer Leiden tausend Dank,  
daß ihr mein Seelenheil so wert geacht'.

**Mein Jesu, gute Nacht!**

### 68. Chorus

Wir setzen uns mit Tränen nieder  
und rufen dir im Grabe zu:  
**Ruhe sanfte, sanfte ruh'!**  
**Ruh't, ihr ausgesognen Glieder!**  
- Ruhet sanfte, ruhet wohl! -  
Euer Grab und Leichenstein  
soll dem angstlichen Gewissen  
ein bequemes Ruhekissen  
und der Seelen Ruhstatt sein.  
- Ruhet sanfte, ruhet wohl! -  
Höchst vergnügt schlummern da die Augen ein.

もう一人のマリヤが残り、  
墓に向かって座った。  
翌日、即ち準備日の次の日、  
祭司長やパリサイ人たちが、  
皆でピラトのもとに来て言った。  
「総督、私たちは思い出しました。  
あの人を惑わす者が、生前こう言いました。  
『私は三日後に蘇るだろう』と。  
そこで三日過ぎるまで墓を見張るように  
命令してください。

さもないと彼の弟子たちが来て  
遺体を盗み  
民衆に言うでしょう。  
『彼は死より蘇った』と。  
それでは後の惑わしは  
前のものよりひどくなります。」  
ピラトは彼らに言った。  
「番兵を貸そう。  
行って納得の行くように墓を見張れ！」  
彼らは行って、  
番兵と共に墓を見張り、  
石に封印をした。

### 67. レチタティーヴォと合唱

今や主は憩いに付かれた。  
**私のイエスよ、お休みください!**  
私たちの罪が主に負わせた苦しみは終わった。  
**私のイエスよ、お休みください!**  
おお聖なるなきがらよ、  
ご覧ください、私がどんなに後悔と共に  
あなたのことを嘆いたかを。  
私の墮落があなたに  
このような苦しみをもたらしたのだから。  
**私のイエスよ、お休みください!**  
生きる限りあなたの受難に多くの感謝を捧げよう。  
あなたが私の魂の救いを  
これほど大事にしてくださったのだから。  
**私のイエスよ、お休みください!**

### 68. 合唱

私たちは涙にくれひざまずき、  
御墓の中のあなたに呼びかけよう。  
お休み安らかに、安らかにお休みくださいと!  
お休みください、傷にまみれた御体よ!  
- お休み安らかに、心ゆくまでお休みください! -  
あなたが入っておられる墓と墓石こそ  
悩める良心には  
心地良い憩いの床、  
そして魂の憩いの場。  
- お休み安らかに、心ゆくまでお休みください! -  
そしてこの目はこの上なく満ち足りてまどろむ。

**表記について：**

- ・各単語の綴りなどは基本的には音楽之友社「J.S.バッハ／マタイ受難曲」ミニチュアスコア（新バッハ全集準拠版）に従いました。これにより今日では -ck- と綴る部分も -kk- となっています。ただし新バッハ全集にて"Jünger ~", "Jüden ~"となっている綴りをそれぞれ"Junger ~", "Juden ~"と記したのは、指揮者の考証によるものです。
- ・聖書の言葉はできるだけ休符が挿入されている箇所で行改しました。コーラル歌詞、その他の合唱曲、レチタティーヴォやアリアなどの歌詞のように音韻を持つ文は、できるだけ音韻を区切りに行改しました。
- ・ダカポ形式の歌詞（ここでは音楽的形式ではなく歌詞の歌われ方）は、多くの対訳例に倣って、中間部を1字分右下げして印刷し、繰り返される歌詞は省略しました。

- 参考文献** ・「グレゴリオ聖歌集大成」(KICC-6129~48) 添付解説 - 皆川達夫ほか
- ・「カイザー：マルコ受難曲」(CD 50-9223~4) 添付解説 - F.Kienberger、杉山好訳
  - ・「新音楽辞典・楽語」音楽之友社
  - ・「バッハ・カンタータ研究／樋口隆一」音楽之友社
  - ・「マタイ受難曲 - 解釈と演奏／H. リンク、松原茂訳」シンフォニア
  - ・「マタイ受難曲／礪山雅」東京書籍
  - ・「聖書・新改訳(1970)」日本聖書刊行会
  - ・「J.S.バッハ：マタイ受難曲／J.E.ガーディナー指揮」(POCA-2131~3) 添付解説 - 杉山好対訳

**解説と歌詞対訳** - ご質問・ご意見は萩野へ ( 053-475-5649、hagino@vsg.emi.yamaha.co.jp )

## 浜松バッハ研究会演奏活動年譜

**主催公演**

上演日	上演曲目	指揮	上演会場
1985年12月26日	J.S.バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1986年3月28日	J.S.バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1986年12月22日	J.S.バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1987年4月13日	J.S.バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1988年3月21日	J.S.バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	浜松市福祉文化会館
1988年12月26日	J.S.バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	遠州栄光教会
1990年10月7日	J.S.バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	浜松市福祉文化会館
1990年12月16日	J.S.バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	遠州栄光教会
1991年8月12日	J.S.バッハ「ヨハネ受難曲」朗読と合唱	三澤洋史	龍山村森林文化会館
1992年3月22日	J.S.バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	浜松市福祉文化会館
1993年3月21日	G.F.ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	浜松市福祉文化会館
1994年6月12日	「無伴奏合唱への誘い」J.S.バッハのモテトBWV225/229他	三澤洋史	遠州栄光教会
1995年1月22日	「ニューイヤーコンサート」J.S.バッハ／カンタータ名曲選他	三澤洋史	遠州栄光教会

**合同・協賛公演**

上演日	上演曲目および内容	上演会場
1986年9月15日	浜松クリスチャン・クワイアとの合同演奏会 モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276 ソプラノ：藤井多恵子、ピアノ：鈴木敦子、管弦楽：カペラ・アカデミカ	遠州栄光教会
1986年10月19日	「ムーンライト・コンサート」協賛 - 秋の歌・月の歌	天竜・月光山海蔵寺
1987年9月20日	教会音楽コンサート協賛 - J.S.バッハ：カンタータBWV56/80 バリトン：今仲幸雄	遠州栄光教会
1987年10月9日	「ムーンライト・コンサート」協賛 - 月にちなんだ日本の愛唱歌	天竜・月光山海蔵寺
1988年3月5日	正泉寺「山寺音楽会」協賛 J.S.バッハ「マタイ受難曲」コーラルとその原曲	引佐郡井伊谷正泉寺
1991年3月17日	瑞穂会ピアノ発表会賛助出演 モーツァルト：12番ミサよりキリエとグロリア、Ave verum corpus、 J.S.バッハ：カンタータBWV140よりコーラル	クリエート浜松
1991年6月30日	掛川市駅南学習センター美感ホールのオープニング・コンサート モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276, Ave verum corpus 管弦楽：カペラ・アカデミカ	掛川市美感ホール
1991年12月23日	市政80周年記念ラートハウス・コンツェルト J.S.バッハ「クリスマス・オラトリオ」抜粋、管弦楽：カペラ・アカデミカ	浜松市役所ホール

## 合唱団員募集

### 浜松バッハ研究会

浜松バッハ研究会の活動も11年目となり、創立以来のアットホームな雰囲気を保ちつつも、新たな飛躍を遂げようと努力しております。レパートリーもバッハの4大宗教曲、カンタータやモテトなどの声楽作品は勿論のこと、バッハの先輩やバッハの影響を受けた作曲家の曲も積極的に取り入れ、表現の幅を広げて行くつもりであります。このような私たちの活動に興味をお持ちの方は、一度練習場までお越しください。

#### 次回上演予定

モーツァルト「レクイエム」ほか

#### 練習場

積志公民館（右地図）ほか

#### 練習日時

- ・毎週土曜日 19:00～21:30
- ・月1回日曜日 13:00～17:00（三澤先生の練習）

#### 会費

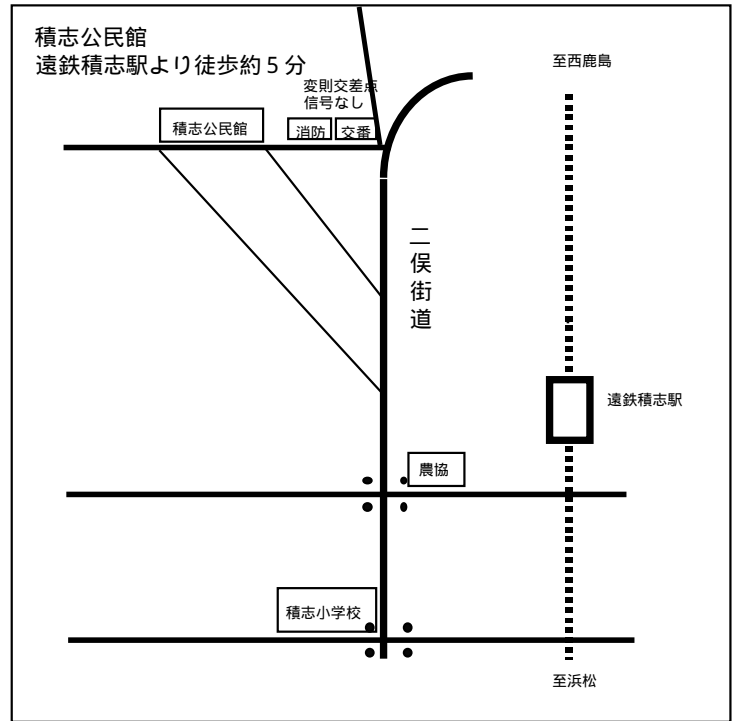
月額2500円（学生2000円、高校生1500円）

#### 連絡先

早川徳次（053-472-0341[FAX可]、  
電子メール tokuji@vsg.emi.yamaha.co.jp）

#### 浜松バッハ研究会ホームページ

<http://www.hamamatsu-pc.ac.jp/users/mori/bach-society/bach-society.html>



### 豊橋バッハアンサンブル

「マタイ受難曲」を歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理・・・という豊橋在住の人達が集まってできた合唱団が、豊橋バッハアンサンブルで、いってみれば、浜松バッハ研究会の分身です。毎週豊橋で練習し、月1回は浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に、三澤先生の練習に参加しています。豊橋及びその近くにお住まいで、次回上演予定のモーツァルトの「レクイエム」を歌いたい方は、ぜひ一度練習を見にお越しください。

#### 練習場所と時間

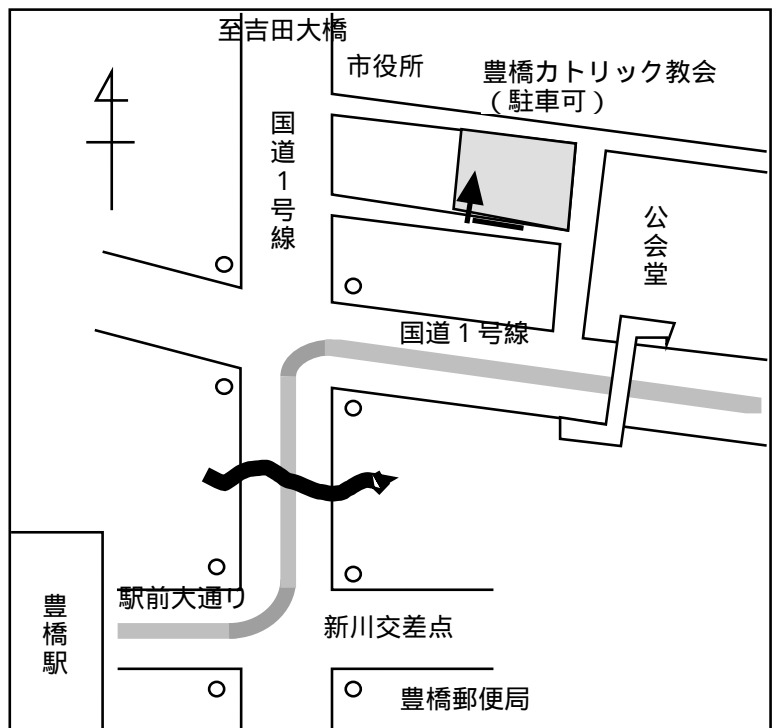
- ・毎週金曜日 19:30～21:30  
豊橋カトリック教会（地図参照）
- ・月1回日曜日 13:00～17:00  
浜松市積志公民館（三澤先生の練習）

#### 会費

月額1500円

#### 連絡先

安井研一 0532-47-0676



もうひとつの「マタイ受難曲」

バッハアンサンブルコール10周年記念演奏会

J.S.バッハ「マタイ受難曲」BWV244

指揮	三澤洋史
福音史家	頃安利秀
イエス	浦野智行
ソプラノ	松田昌恵
アルト	栗林朋子
テノール	西垣俊朗
バス	安藤常光
ヴァイオリン	近藤フミ子
チェロ	磯村祐子
チェンバロ	近藤里枝
オルガン	花井 淑

合唱 バッハアンサンブルコール  
犬山少年少女合唱団

合奏 バッハアンサンブルオーケストラ  
主催 バッハアンサンブルコール  
バッハアンサンブルオーケストラ

後援 愛知県 / 名古屋市 / 犬山市  
愛知県教育委員会  
名古屋市教育委員会  
犬山市教育委員会

1996年3月20日（水・祝日）

午後2:30開場 午後3:00開演

**愛知県芸術劇場コンサートホール**

一般 3,000円 学生 1,500円（全席自由席）

チケット取扱 / チケットぴあ・名古屋市内有名プレイガイドで発売中

お問合せ： 0568-82-8377 高原